愛國婦人

毎月一日十五日發行

一部三錢五厘　一ヶ月七錢半　一年分四拾貳錢　全國無遞送料

廣告料　一行六十錢

東京麹町區（牛ヶ淵公園）　發行所　愛國婦人會

發行人　山澤俊夫　印刷人　竹内貞三

愛國婦人會の今昔と將來の活動

回顧すれば、明治三十九年三月二日

本會の創立

より茲に滿十周年、此の間の星霜僅かに一旬歳に過ぎずと雖も所謂北清事變の戰後を承け、尋で日露の戰役に當り、本會は刻苦精勵、天下に率先して出征軍人の犒勞、戰死者遺族の愛恤、癈兵の慰藉等有ゆる慈惠と救護とに從事したれば、自から數十年の歴史に値すべき多大の經驗に富みたるを信ず。されば天下の志士仁人は世界に無比なる此の事業を贊襄せられて、深く厚き同情を寄せられたれば、本會は幸に當初豫め期したる希望以上の目的を遂して、茲に第一期の成功を見るに至りしは衷心大に感謝する所なり加之政府も遺族癈兵には十分なる庇護を與へられたれば今後本會の事業は進んで第二期の活動に入るを促るゝ者の如し。

抑、本會の起原は、天下の已に認識せらるゝが如く、三十三年の役に際して東洋のナイチンゲールたる奥村五百子刀自か、親しく戰地に出張して、忠勇なる出征軍人の奮闘と、其の義烈より生ずる悲慘の狀況とを目睹して、深く之に同情し、且つは干城護國の任にある軍人にして、若し絶勇の志氣に乏しからんには、決して國家の强大を期すること能はざること、又其の絶勇なる志氣は、忠愛なる一片の至誠の外に、一點後顧の憂なからしむるを要すと觀察して、大に後援救護の事業を起さんと欲したれば、當時戰場に使役せる軍人の慰問と、戰病死者遺族並に癈兵の救護と、一般兵士の家庭中貧困若くは病者ある者は之を愛助して、彼れ等兵士に後顧の憂なからしめんことを期したれども、創刱の際、未た以て力を全目的に盡す能はざりしかば、消極なからも、現に本會の定款に示せるが如く、「本會は戰死並に準戰死者の遺族及び癈兵を救護するを目的とす」と定めて、之を實行しつゝあるに當り不幸にして三十七八年の役に遭遇したれば更に奮勵して一層之が本分に盡力せられたるものゝ如し。

然るに、前項既述の如く、今や本會の消極的事業は遺憾なく成功して、遺族の飢寒に泣く者なく、又癈兵の道途に呻く者なきに至りたれば、茲に吾人等の希望を述べんと欲せば、本會將來の事業を擴張して、積極的の活動に移り、一般壯丁の徴されて光榮ある軍人となりたる兵員中、一家の幹柱たり屋梁たりし人の家族にして、生活に困難を生じたる者に對しても諸種の愛護法を設けて、當該兵士に後顧の煩累なからしめん事を欲す。蓋し、忠勇にして奉公の精神に充たされたる兵士は、在役中に如何なる困苦缺乏に座するも、甘んじて之を忍びつゝ、君國の爲めに、勇ましく其の義務を納め、又其の家族も、一代の奉公として之に堪ふべき決心あるべけれど、一家不幸にして貧困なるか、或は老いたる尊族ありて之か擁護の必要あり、或は疾病の者、或は幼弱の者多くして爲めに活動する能はざる妻女あり、或は其の夫兄の徴されしより、一家の生業を失ふ者あるべし。果して然らば、如何に忠勇至誠の兵士と雖も多少後顧の憂なき能はず。後顧の憂に沈める者は、勢ひ勇烈なる能はざるは、理情の當に然るべき狀態にして、是れ平時に於ける後援愛護の必要ある所以、又本會が大に積極的の活動に從事して、當初の主たる目的を將來に大成せざるべからずと確信する所以なり、而して、所謂愛護の方法とは、**第一・授産・第二・子弟教育・第三・金品贈與**の三種にして、事情に從りては第三をも行ふべけれど、主として第一第二の方法を取り、其の第一授産に就ては本部及各支部に於て、地方の狀況に鑑み、或は農桑牧畜の業を授け、或は工業手藝を勸め或は商工兼業の途を開く等、要は軍人家族の自動自營を助成するに在り、其の第二子弟教育に就ては現に本部に於て實行しつゝある教養所の如きを漸次各地方に設け若くは地方の必要に應じ適當なる方法を以て教育するにあり。尚、左に些か本會が世の進運に伴うて更に向上發展せざるべからざる所以を敍すべし。

惟ふに、現今在營兵員大凡二十五萬人是に海軍五鎭守府六十七軍艦の兵員を加ふれば三十萬に過ぐ。其中、下層の國民にして夫兄の兵に徴されたるが爲め、職を失ひ業を廢する者幾戸あるべきか、今假りに、三十萬の十分一とすれば三萬戸にして、一戸五口に平均せば、實に十五萬人の家族は無告の貧困者たるを免れず。蓋し、忠勇無比の我が帝國臣民なれば、君國の爲とあらば、萬苦を忍び千辛に堪へ、一死以て公に奉せんことを期する者、焉んぞ一家の私事を顧みて、報國の大義を誤れん。然れども、茲に一家六人の小作零農あり、一人の壯丁に賴りて僅かに衣食しつゝ飢寒を凌げりと假定せよ、又茲に、仰いで養ひ俯して扶くべき家族を保護しつゝある壯年の勞働者ありと假定せよ、是等の壯丁にして一朝兵に徴されなば、數口の家族は倐ち其日より生活の一途を失はん、斯の如き家族にして、如何に報國の一念堅きも、人生最大の惡鬼たる饑餓周圍に迫らば之を如何せん。又夫の徴されて兵營に祇役せる壯夫等も、如何に忠勇義烈なればとて、戰時ならざる平時に於ては、必ず常に家庭の慘狀を想うて、後顧の念なき能はざるは人情の常なり。否、國家最憂の戰時と雖も、後顧の煩ある軍兵は必ず强勇なること能はず、況んや平時に處して飢寒に泣ける家族にして、目前に横はれる戰時に非ざるよりは、往々壯夫をして後顧の念を起さしむることあるに於をや。若し將斯る側隱の心は徒らに吾人の杞憂に過ずとするも斯の如き家庭多くして之に疾病を加ふるが如き不幸なる者多き國家は竟に貧弱也。今又翻つて、一般社會の狀態を觀察するに、家に入營の軍人なく、身に一患の病なきも、營むに業なく、奉ずるに職なくして一家貧苦の間に跼蹐し、或は困苦缺乏と闘ひつゝ、昭代の樂を樂むこと能はざる者・加ふるに疾病を得て陋巷に呻吟せる者あり。是に於て乎、畏くも、至仁至聖なる我が天皇陛下は、過る二月十一日を以て、特に洪恩を極めたる詔書を喚發せしめられ、御内帑を節して、金百五十萬圓を天下の貧困病弱なる赤子に割與し玉ひ、内閣總理大臣に勅して、之を施療施藥の資に投せしめられたり。吾人、臣子の分として、此の宏大無限なる天恩の至高至渥を拜し、之に浴する我が同胞と等しく、如天の聖旨に感泣して、恐惶言ふ所を知らず。聖恩既に斯の如し、吾人臣民たる者億兆一心、以て無告の同胞を相扶け聖上陛下に毫も軫念を煩はし奉らざらんことに努力せざるべからず。されば、吾人臣民の老少婦女に代つて、干城護國の大任に丁れる兵壯中若し、其の徴されたるが爲めに家族の生活に困惑せる者あらば、固より奮つて之が救濟保護に任じ、以て入營壯夫に後顧の憂なからしむるを分とす。故を以て、本會は自今大に力を茲に用ひて、本支部間互に呼應提携し、各地方土の狀況に從つて、必ず愛恤の義務を果さん事を望む。希くば慈仁同情を以て充されたる本會の會員各位は勿論、六千餘萬の同胞諸君は、吾人等の熱誠なる希望を諒とし、益々進んで、此の積極的擴張の功を大成せしめられんことを。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●聖恩下る（御内帑下賜）

聖上陛下には去十一日午前十一時桂内閣總理大臣を御前に召させられ左の勅語を下し併せて施藥救療の資として金百五十萬圓を賜はる旨御沙汰ありたり。

勅語

朕惟フニ世局ノ大勢ニ隨ヒ國運ノ伸張ヲ要スルコト方ニ急ニシテ經濟ノ狀況漸ニ革マリ人心動モスレバ其ノ歸向ヲ謬ラムトス政ヲ爲ス者宜ク深ク此ニ鑑ミ倍〻憂勤シテ業ヲ勸メ教ヲ敦クシ以テ健全ノ發達ヲ遂ゲシムベシ若夫レ無告ノ窮民ニシテ醫藥給セズ天壽ヲ終ルコト能ハザルハ朕ガ最軫念シテ措カザル所ナリ乃チ施藥救療以テ濟生ノ道ヲ弘メムトス玆ニ内帑ノ金ヲ出ダシ其資ニ充テシム卿克ク朕ガ意ヲ體シ宜キニ隨ヒ之ヲ措置シ永ク衆庶ヲシテ賴ル所アラシメムコトヲ期セヨ

一金一百五十萬圓

右最前勅語の思食に依り施藥救療の資として下賜候旨御沙汰被爲在候此段傳宣仕候也

明治四十四年二月十一日　宮内大臣子爵　渡邊千秋

内閣總理大臣侯爵桂太郎殿

●李王以下御禮遇

畏き邊にては李王殿下を初め王族數名の名譽を表彰せんが爲め各左記の通り陸軍武官に準ずる禮遇を享けしめらるゝ旨御沙汰ありたり。

陸軍大將　李王殿下
陸軍步兵中尉　李王世子殿下
陸軍中將　李堈公殿下
陸軍中將　李熹公殿下
陸軍中將　侯爵　李載完
陸軍少將　同　李載覺
陸軍少將　李熹公嗣子　李埈鎔

●朝鮮御璽國璽の納附

李王殿下には韓國併合の結果御璽國璽不用に屬せしを以て近く總督府を經て吾が皇室に納附せらるべき思召しにて其旨總督に御申出で相成りたりと。

●各社寺へ恩賜

畏き邊にては左記社寺の請願を聞し召され各頭書の如く御下賜金の御沙汰ありたり。

金五百圓（本殿修理費中へ）官幣大社石上神社
金七百圓（本殿建物移轉費中へ）別格官幣大社建勳神社
金五百圓（堂宇修理費中へ）清淨華院

●南島へ侍從差遣

聖上陛下には南方孤島住民の上を軫念遊ばされ御慰問並に民情視察の爲め十三日左の通り侍從差遣の御沙汰ありたり

侍從　日根野要吉郎

小笠原、八丈島及び鳥島に被差遣

●光宮御入學

第三皇孫光宮宣仁親王殿下には本年を以て御學齡に達せられたるに付今學期より學習院へ御入學あらせらるゝ由。

●故三條公廿年祭

去る十八日は故三條實美公の第二十周年忌に相當し音羽護國寺に於て墓前祭を執行されたるが聖上陛下には公を御追念あらせられ特別の思召を以て金色御紋章附銅製燈籠二基を御下賜あり、又當日は日根野侍從を墓前に差遣はされ御代拜のことあり、勅書及祭粢料を賜はりたるが、本會總裁閑院宮妃殿下には中將殿下と共に恭しく墓前祭に台臨被在られたり

貴族院議長官舍　愛國婦人會出生の所

●閑院宮殿下慈善病院に臨御

閑院宮載仁親王殿下には去る二月九日午後二時より神田和泉町なる三井慈善病院に臨御遊ばされ田代院長の御案内にて圖書室、各醫局、各醫長室、内科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科各室及外科手術室X光線室等を順次御覽の後、各病室を御巡覽あり午後三時四十分御歸邸遊されたり。

教育に關する勅語（五）

秦政二郎謹解

又權道の忠と申すのは、國家に緩急のある時は各自力の限り盡瘁し、場合に依つては、財産も生命も投之して君國に殉す義勇のあることで、昔の鎌足公や菅公のやうな境遇にならねば、忠節が出來ぬといふ事由もなく、楠公や後の廣瀬中佐のやうに、亂世で無ければ忠臣にはなれぬといふ、次第もありませぬ。昔の亂世や、又は日清日露の役のやうな折に戰死したり、軍資金を出したりするのは、非常の場合の事で、平常の事で無いから、先づ平常の忠が第一であります。元來忠節といふ事は、人の良心誠實から出るもので、身を思ひ、家を思ひ、親を思ひ、子を思ふ赤心を、大きく擴めて、君を敬ひ、國を重んじ、君と國との恩德に報ずる次第でありますから、言はゞ忠節といふ勤務が別にあつて、其の爲めに平生の事業を止めて、一生此の勤務を爲ねばならぬといふ事でもなく、平生各自の事業を正しう行ふ事で、畢竟自己の幸福と忠節とが同一に成就るのであつて、少しも難しい者ではありませぬ。其代り國家に一旦緩急の起きた場合にはその場合の權道の忠節を竭して、君のためにつくさなくてはなりませぬ。

次に孝行とても其の如り、平常の忠と同じ行道であるから、克く其の親たちに敬ひ仕へ、常に安心させて苦勞させぬ爲め、先づ學問藝業を習うて、其の身を修め、家を齊へて、兄弟姉妹は友愛し、夫婦は和合し、中外の朋友とは親しく信じあひ、國の法憲は嚴重に守つて罪人にならぬ樣注意し、進んで公益世務をも盡瘁し、一旦國家に緩急の起きた場合には、義勇しく公に奉るのが父母に對する大きな孝行となると共に、又忠良ともなるのであつて、忠と孝とは二つでありませぬ。それ故、昔の丈部祖父麻呂等兄弟のやうに、親の罪に代つて之を助けやうとしたり、橘逸勢の女のやうに、流された親の跡を追ふたり、又は支那の二十四孝の如に、寒中筍を覓めたり、或は身を棄てて親の難儀を救ふたり、するばかりが孝行といふ一筋の道でもなく、是れは前に申した權道の孝行で、常道の孝は平生にあります。

斯樣に忠といふも孝といふも、其の源は人情の厚い良心から出て、君には忠となり、親には孝となり、信義も博愛も、其の出所は只一つの公正しい情愛から分かれるので其の中にも孝の心は百行の基ゆゑ、如何なる者も孝道に外れては人類でなく、又孝心の厚い人で無ければ、忠臣義士ともなられませぬ。然るに、一生の中、心得の不可い者は、動もすれば自分勝手といふ雲が出て、良心を蔽へる時代があつて、親の苦勞も慈悲も忘れ、後になつて孝行を行たい時には親が亡く、又子を有て親の恩を知りますが、何程後で悔んでも、其のかひはありませぬ。

●愛國婦人會茨城支部總會

愛國婦人會茨城支部に於ては來る三月十九日支部會員總會を開催する筈にて總裁宮殿下の御台臨を仰ぎたき旨同支部長より申請ありたるが多分御聽許あらせらるべしと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

奥村女史を懷ふ

子爵　小笠原長生

奥村女史の對外的活動は、日淸戰爭に始まり、次で三十年に朝鮮に渡り、翌三十一年の四月、更に渡韓の途に上り、此折には、當時我國人が未だ一人だも踏み入つたことの無い光州に入つて、汎く靑年を敎化し、殖産興業を奬勵せん爲めに、非常の辛艱を犯して實業學校を設立された。然るに其の努力は却つて韓國人の惡感情を惹起し、妙な疑念を抱かれ、爲めに種々な面倒が起り、苦心慘澹の有樣であつた。之につけても、奥村女史を今日まで生かして置きたかつた。どんなにか赫々たる御稜威に感泣するであらう。實に朝鮮併合を一目見せたかつた、と、切に殘り多く想ふのである。

然し、此時女史の强烈なる愛國的精神と、熱誠なる博愛的行動とは、畏くもやんごとなき雲井の御方々の御耳に達し、朝鮮より歸朝後間もなく、東伏見宮殿下同妃殿下及閑院宮殿下同妃殿下に拜謁し奉り、優渥なる御言葉を賜はりたる上に、更らに結構なる御下賜品などを忝ふするの光榮に浴したのである。

次で、三十三年一月、女史は東本願寺より南淸に於ける同派布敎視察の命を受け、傍ら淸國婦人との交際を啓く希望を以て、南淸に赴かるゝ事となつた。

此行、女史は上海から福州に入り、或時は有志の邸宅にその夫人を訪問し、又ある時は都門の外、遠き寒邑僻落を巡察して婦人敎育の狀況を見られたが、福州から厦門に渡り、更らに上海に引き返し、それから途を轉じて蘇州、杭州地方を踏査し、長江沿岸の視察を遂げ、漸く南京に入つた。然るに、時恰もかの團匪が既に北淸に蜂越し勢猖獗で、其の餘波が遠く南淸にも及んで居たので、尚深く歷遊することが頗る危險であると云ふ諸氏の忠告を容れ、三度上海に出でゝ歸朝につき、途上朝鮮に立寄り、嘗つて苦辛經營の實業學校創設地たる光州府を過ぎ、釜山から帝國軍艦宮古に便乘して、約六ケ月目に歸朝された。此の軍艦便乘に就て一場の面白い噺がある。

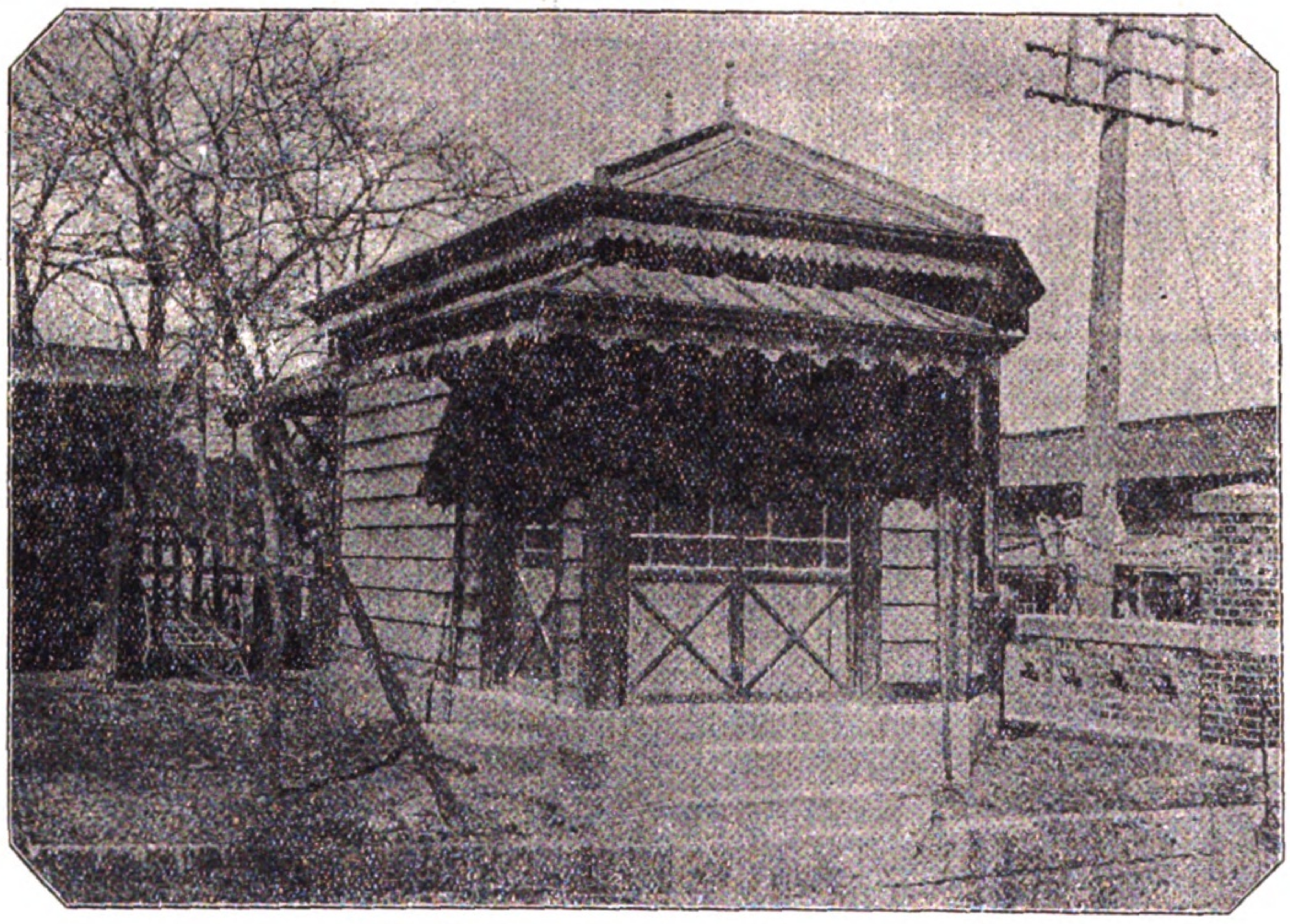
女史が釜山から日本に歸らうとしたが、船が無い。そこへ丁度折よく八代中佐（現今の少將）の艦長たる軍艦宮古が入つて來たので、豫て女史とは懇意な間柄のことであるから『どうか貴君の軍艦で自分を連れて歸つて呉れい』と賴んだが、婦人は勿論、男子とても容易に軍艦便乘の特權は得られぬものであるから、中佐は『如何に懇意な間柄であつても、無暗に乘せると云ふことは出來ない』と斷はられた。然るに女史は豫て場合によりて軍艦へ便乘のことに關し伊東元帥からの書面を貰つて携へて居られたので、其の書狀を示したので直に便乘を許されたと云ふことである。

此の航海中に於て、女史は中佐の乞に任せ、水兵を上甲板に集め軍人の報國的精神に就て一場の演說を試みた。

次では北淸軍の慰問である。北淸に於て同盟軍と共に勇戰奮鬪しつゝある我軍に、慰問使として東本願寺の連枝を差立てると云ふことは、女史の熱烈なる願意である。が、此の希望は容易に達する事が出來なかつた。而し、女史が鐵火も枉ぐ可らざる愛國的精神は、遂に貫徹されて、東本願寺連枝大谷瑩相師一行は、愈北淸軍慰問使として渡淸することゝなり、女史亦輕裝して之に從ひ、明治三十三年十月中旬、一行は既に天津に到着した。

此行に於て女史が如何に目覺しく活躍したかと云ふことは、こゝに述べぬが、我軍が熱砂の中、水氣も無き生黍を嚙み、玉蜀黍をかぢり、或は屍流るゝ河水を飮んで、而も勇敢無比、而も軍律最嚴肅洵に帝國軍人たるの品位を損せぬ健氣の擧動に感泣し同情の熱淚禁ずる能はず、我國の男子は此の如く國家の爲めに辛慘を忍び、血を異域に流して居るのに、女子とて何んで凝として居ることが出來やう、理的方面は男子のことであるが、婦人は婦人だけに情的方面に活躍して、國家の爲めに出來得るだけの力を盡さねばならぬ。つひては、是等勇忠なる戰死軍人の遺族救濟の方法は、既に政府に於て致されては居るが、政府の力には限りがあるから是非共我等婦人を糾合して一大團體を組織し其力を併て遺族を救恤し、兵士をして後顧の憂なからしめ安心して皇國の爲死に赴くやうにすることが、日本婦人の重大責任であり、又目下の最大急務である、とこゝに始めて偉大なる國家的慈善事業に對する大念願が女史の心頭に閃いた。

女史は、この大念願を抱いて歸朝の途に就き、途中仁川と釜山とに立寄り茲に始めて此の大精神を演述したが、歸朝するや直ちに予の家に來られた、當時予は病魔に犯されて、醫師から他人との應接を嚴禁されて居たので、面會を斷ると、女史は『國家の一大事の爲めに罷り出たのに面會せられぬとは其の意を得ぬ』と、いつかな動かれぬので、遂に臥床の儘に面會すると、女史は淚を垂れ、婁々として婦人團體設立、軍人後援の急務を說かれたる其の誠意には少からず動された。



愛國婦人會創立當時の事務所

かくて、女史が血を吐き淚を濺いで絶叫した熱誠なる愛國的精神は、大に故近衞公爵を始め知名の方々を動かし、日ならずして趣意書を定め　規則書を議決し會員を勸誘し、次で明治三十四年三月二日、九段偕行社樓上に於て發會式を擧ぐることゝなつたのである。

思へば、この事のあつたのは、昨日か今日のことのやうであるが、はや已に滿十年の春秋を經過して居やうとは、實に今更ながら當時を想ふて感慨の情に堪へぬのである。

惟ふに愛國婦人會の如く、生れながらにして目覺ましき活動をなしたる團體は、蓋し世に稀なるものであらう。殊に、日露戰役は、此會の爲めに大なる經驗を與へた。されば會員の方々は、奥村女史の精神を忘れられず、益々皇國の爲めに盡されて、天晴帝國婦人たる美德を耀かされんことを切望するのである。

●癈兵の扶助料

癈兵の恩給扶助料は日淸戰役、北淸事件、日露戰役等の癈兵を通じて一樣に給與し來りたる處其後物價騰貴の爲め日露戰役の癈兵へのみ割增給與をなす事となりたるも日淸戰後の際の癈兵は御恩典に浴する能はず且時代に期十年の差あるが爲に日淸戰役當時の癈兵は日露戰役當時の癈兵よりはヨリ多く衰弱し從つて其窮境も一層甚だしきものあるより日露戰役當時の癈兵と同樣割增給與を得たしと今議會へ請願中なり。

本號主要目次

▲愛國婦人會の今昔と將來の活動……
▲雲井の御影……
▲教育に關する勅語（五）……秦政二郎謹解
▲奥村女史を懷ふ……子爵　小笠原長生
▲愛國婦人會創立當時を懷ふ……下田歌子
▲兒童の養育に就て……安井哲子
▲桃の花の句……内藤鳴雪
▲小說風馬牛（七）……園蝴

●本誌（附錄共）十六ページ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會創立當時を懷ふ

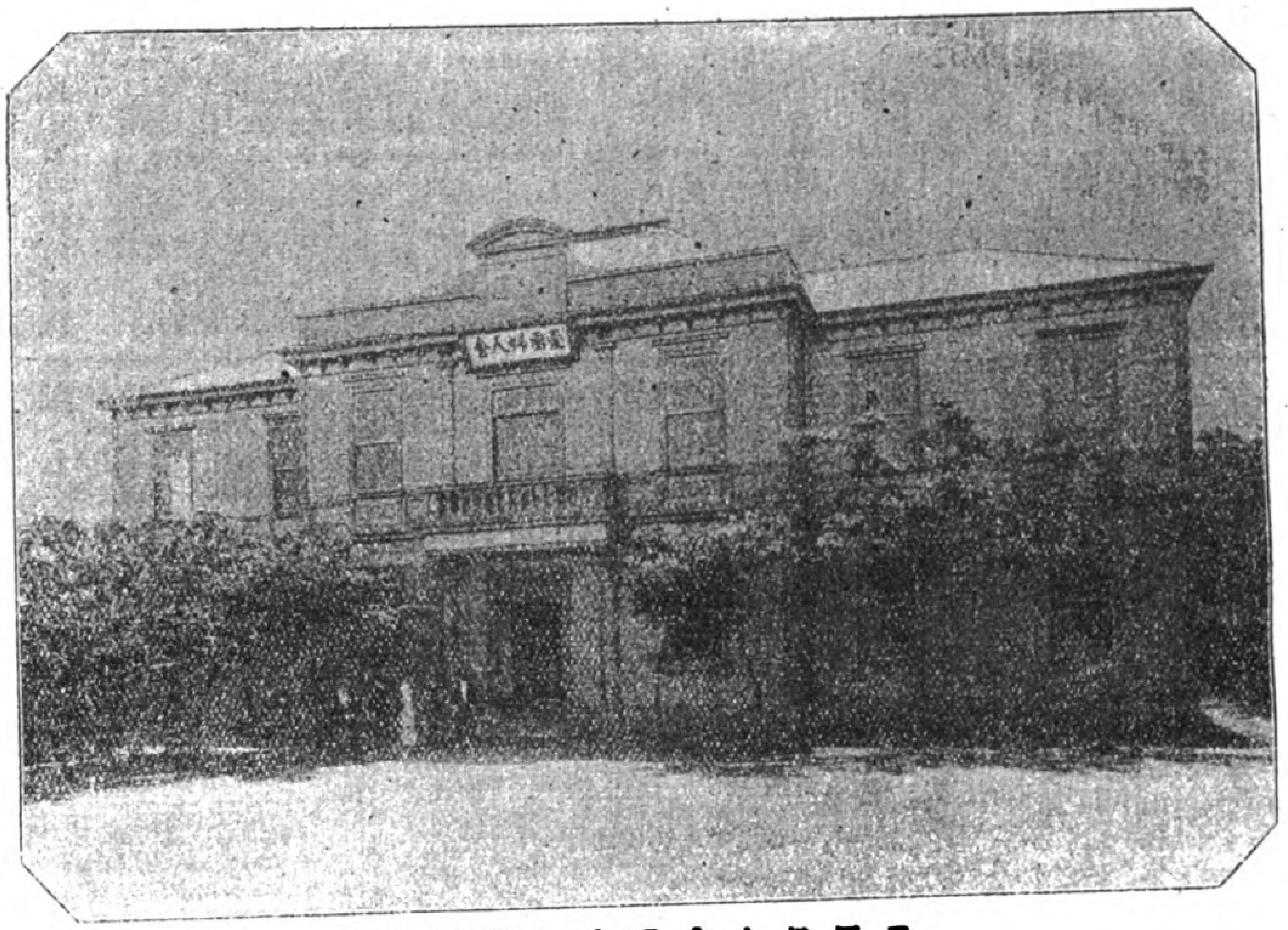
下田歌子

愛國婦人會創立に關して、何か話を致せとの御頼みでありますが、會創立の砌は、多少御邪魔も致しましたが、爾來御無沙汰のみ致して居りまして、曠職の責を償ひも致しませぬので、今日、御話を致すことは、御斷を致したい。然し唯今ふと胸に浮びました事のみを、少しく御話し致しませう。

其の當時、私の宅は、創立の爲め非常に力を御盡しになつた故近衞公爵の御官邸に近う御座いましたので、折々御目にかゝる機會が多くありましたし、それに奥村女史の熱誠溢るゝ御話しを度々承りました。

當時奥村女史は、親しく北清事變に於ける戰爭の慘禍と、兵士の勞苦を目擊して熱涙禁せず、軍人をして皇國のため笑つて生命を抛たしめ、且つ後身の者も之れに感奮して、潔く戰場に屍を晒すの情を有たしむるは、一に軍人の遺族を救恤して後顧の憂なからしめるにある。特に人心日々に浮薄にして人道頻りに衰頽し恐れながら國運の前途も、或は悲觀せられんとする今日、此の事業を企つるは實に焦眉の急務である、といふので、其時既に女史は病に罹つて居られまして、時には血を吐きつゝ涙を流して愛國婦人會の設立を叫ばれたのであります。歳月に關守なく、これは早滿十年以前の歴史となりました。然るに其後以外にも國運は隆々として發展し、今や我國は世界の一等國に伍し、更らに朝鮮までも併合するの盛運に赴きましたが、私は、鷄林八道の民悉く皆皇化に浴するの幸運を得來つた、現今の朝鮮の状態を、只一目でも生前奥村女史に見せたかつた、又これを扶掖あらせれた故近衞公にも御覽に入れたかつたものを、と存じますと、轉た感懷の情に堪へません。

夫につけても我國の婦人の多くが、軍人遺族の救護に就て、益々力を盡されるのは勿論、朝鮮合邦の結果、新に加はり來つた彼の地の姉妹同胞の幸福の爲めに、自ら良模範となり、誠意誠心を以て之を誘道開啓されんことを希望致すのであります。



愛國婦人會現今の事務所

兒童の養育に就て

安井哲子

衣服と食物はどちらが兒童に大切であるかと問はるれば、どちらも同樣に必要であると答ふるでありませう。そこで衣服も食物も第一其品質の選擇が大切で、氣候に應じ年齡に應じて、能く衞生に適した物を選ばなければなりませんが、時としますと是等に對する母親の注意が誤つて居る樣に見える事がありますから、之れに就て申上げて見ませう。

私の觀察に依りますと、母親が第一子供に向ける注意は衣服である樣に見ます即吾子に美くしい衣服を着せて愛らしく見せ度いといふ熱心から、美くしい高價な絹布類を選び、之れを着て人形の樣に見える吾子に、滿腔の喜びを注ぐのであります。又男の兒ならば水兵服であるとか、金釦服であるとか、活潑さうに見ゆる姿に、親ながら見蕩れるのでありますが、然らば下着はどうであるか、能く寒さを凌ぎ得る樣に股引や猿股でも着せてあるかといへば、是等には餘り注意の屆かぬのが多くあります。

又かゝる愛子の食物はと問へば、時には驚く程の粗食を與へて滿足して居る方もあります。衣服は直に其子供の外觀に變化を與へますが、食物はさほどの變化が一時に現はれません。そこで兒童の辨當を調べますと、其服裝と大差のあるのを發見致します。

一體兒童には質素な習慣をつくべき者で、殊に活潑に遊戲する事を好む時代には、成るべく運動に適する丈夫で粗末で輕い衣服を着せて置くべきであります。汚れる事を恐れる樣な衣服や、重くて十分に走り廻られぬ樣な者は、子供に最不適當であります。

之れに反して子供は能く運動して日に増し——身體も大きくなるのでありますから、消化の良い相應に滋養のある食物を與へねばなりません。これこそ將來高等の教育を受ける場合に、能く耐へ得る樣な身體を造るのに必要なので、粗食をした結果、元氣もなく十分の發育も出來ぬといのは、誠に不經濟な事であります。西洋の子供は質素で且つ活潑に運動の出來得る樣な衣服を着て居ますが、食物には餘程注意して居る樣に見えます。私の參觀しました英國の幼稚園や女學校などでは、午前十一時頃に「ミルク」と「ビスケット」を食するのが例で、寄宿學校では三時と五時との間に紅茶と「パン」を食するのが習慣であります。其他晝食は成るべく學校で適當な物を與へる樣にし、貧民學校では學校で之れを給する所もあります。他の歐米諸國でも亦之れと同樣であるといふ事を聞きましたが、學校及家庭が如何に兒童の身體に深き注意を拂つて居るか解りませう。

然るに吾國では、母親が其子を愛する事は、是等歐米の婦人に勝つて居りますが、衞生の思想に乏しいのと、外觀を飾る風があるのとで、眞に其子の將來を憂ふる事が少く、終には粗食を與へて身體の發達を妨げ、美衣を着せて稚少より虚飾を貴ぶ樣にするのであります。或は又教育に注意して居らるゝ母親でも、中流以上の方々は何事も女中任せとなし、主婦が臺所に出て働くのは、卑い事の樣に思はれる結果、子供の辨當は、大抵女中に依つて造られますから、子供の好まぬ物や、何の滋養もない物や、不適當な刺戟性の物などを入れて、少しも怪しまぬのであります。何んと可憐ではありませんか。一生懸命に勉强し、活潑に運動し空腹になつた子供には、辨當がどんなに樂しみでありませう。然るに蓋を取れば粗末な「おかず」、折々「これきらひ」といふ幼兒のあはれな顏を其母親に見せてあげたいと思ふ事もあります。

吾國の婦人は意味なく美服を着たがり他人の見ぬ食物は粗末な物を用ふるのが多いと聞いて居ますが、これではまるで他人に見せる爲めに生きて居るわけで、此世に生活して居る目的が一つも立たぬではありませんか。自分一人が成人のみであれば、これでよいかも知れませんが育つさかりの子供までも此仲間入りさせるのは、實に憐れむべきであります。今から育つ子供は吾々よりも一層烈しい生存競爭をしなければなりませんから弱い子供では到底勝を占むる事は出來ません最愛の子供が競爭に負けて、何事も思ふやうにならず、煩悶して居る樣を見られたならば、親として如何なる感じが致すでありませう。子供の時美服を着せて人形の樣だとちやほやされた事は、かゝる場合何の用にもなりません。吾子を眞に愛する母親は、吾子の幸福の爲め、吾家の繁榮の爲め、延いては國家將來の隆盛を圖らんがために、今少し吾子の養育に眞面目な注意を拂はれたい者で有ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佐々木信綱先生選

天　野は霞み緩う流るゝ多摩川の水に解け行く月の光よ　富山縣石動町七七四　千葉東菊子

（評）着想新らし

地　春の夜や月さす窓にあるじよひて話せさする奈良の宿哉　岩代柳津村　爲田よしの子

（評）のどかなる春の旅いとうらやまし

人　龜にのりて出でし島子や今いづこよさの浦和の春のよの月　三河幡豆郡平坂村　市川はな子

（評）風土記の昔を新らしくよめるいとよし

秀逸

唯か家からうたきすまの月さして春の夕べをたゞおぼろなり　北海道　五十嵐やす子

花の香のいづこともなくかよふなり月おぼろなる春の夕ぐれ　豐橋　平松いと子

ゆめのことおきつ島山くれそめておぼろにうかふ春の夜の月　三河　山內經子

つねはうきわか庵なれど春のよの月のこゝろのどかなるかな　横濱　鈴木まつ子

美しき花の筏に乘りませる詩の神迎ふ春の夜の月　愛知　岡部ひろ子

鶯の花の梢にやどる夜を霞の間より月そてらせる　京都　難波良久子

文箱手に女の童行く嵯峨の道花の香高く月朧なり　岩代　長谷川吉野子

初春や雪ちら／＼と降る中を雲間に光る月の淋しさ　備前　釋水ますゐ子

かへり來ぬ羊たづねて迷ひ出づる春の牧野の夕月の影　三河　間瀬昇子

春なれやふゞきもたえて山の端にかすむ月こそのとけかりけれ　丹後　寺田登茂子

うすゝみのはげかきしたる山の端を霞みて月のいまかいつらん　赤坂　清水まつ子

佳作

吹く風はまた寒けれど庭の雨をおぼろに照す春の夜の月　神田　木田北濱女史

朝霞に眠れる藁の村十戸淡く消え行く有明の月　富山　千葉東濟枝子

やさしかる少女の面ににたるかなかすみて匂ふ春の夜の月　岩手　渡邊豐嘉子

打かすみおぼろにあれどなか／＼に花にさはらぬ月のかけ哉　日向　河野とゝ子

さく花に光りや讓る春の月木の間おぼろに匂ひいてたる　岩代　小川しん子

春きぬとは名のみばかりと思ひきや梅枝照らす月のながめは　靜岡　齋田とめ子

ほのかにも咲き匂ひけり庭の梅垣を見越しの春の夜の月　三重　莊司たれ子

一もとの花さきそめしあまが家ののきはに匂ふ春の夜の月　横濱　鈴木まつ子

梅が香も身にしむ頃の夕あるきのどかに霞む春の月かな　麻布　扇谷よしえ子

夕かすみ殘ると見しはひがめにておぼろ／＼に月そ匂へる　横濱　鈴木まつ子

稚子髷の姿やさしく花見ます君をおぼろに照す月かな　大阪　北林琴枝子

若菜つみ紅緒の草履ひた／＼と夕月かすむ春の野をゆく　麻布　淑子

濡ぎぬに玉をつゝむと見るはかりかすみにくもる春の夜の月　芝　土師利根子

行く春のかたみとや見ん谷川のよどみに浮ふ春のよの月　長野　塚田忠子

おとつれし叔母見送りて門口に妹を迎ふ春の月かな　越中　川島政子

おぼろにもかすみ渡りておも白し梅さく庭の春の夜の月　尾張　吉田つう子

こぎ出す船の行手に春の夜の月さしかゝる濱の靜けさ　備後　世良鶴子

まろ窓にうつれる梅のかたちよく墨繪に似たり春の夜の月　京橋　宇佐美こま子

若草の道を歸りの春の夜かすかに我家てらす淡月　岡山　宗本吉子

仰ぎ見る空うちかすみ池水にうつりてしづむ春の夜の月　岡山　西村長子

朝雀むれ鳴背にも籔垣にかすみて殘る春の月かけ　兵庫　三畑たか子

なつかしき君とわかれし梅か枝をふと見かへれば月のかけのみ　岡山　西村濟子

いにし年行きにし人の忍ばれてそゞろに戀しはるのよのつき　本所　よし子

幼子にお伽はなしの夜は更けて窓よりもるゝ春の月かな　兵庫　田淵祥子

てる月のかけも朧になりぬなり木のめ草のめうちけぶりつゝ　山口　末田竹子

花に醉ひてかへる夜道はおのつからてる月かけもおほろなりけり　山口　末田貞節子

野も山も朧に見えて一入のあはれを添ふる春の夜の月　石川　藤野忍子

花の香に曇るか霞かゝれるか朧に見ゆる春の夜の月　岡山　森島古野子

なつかしきこゑは耳れにひゞけとも人かけみえぬをほろ夜の月　埼玉　佐竹及子

積む雪に挑みしふしも春の夜の窓靜かなり竹の月影　備後　荒木科子

桃の花の句

内藤鳴雪

桃の花は花の中でも豐艶と云ふ點は勝つて居れど、之を梅とか櫻とかに比すれば品致に乏しく卑俗な感を免れぬ。尤も瑤池の西王母や桃源の避秦の人などの歴史故事には人界を超越した趣もないではないが、其他の多くが金殿玉樓の邊りにと云ふよりは茅舍竹籬又は山野田畑等の間ひ／＼に見もし書かれもする處から、吾人の此花に對する感想も自然に下向いて來る。唯だ一つ雛祭と季節を同じうするので其お側に活けられ、又桃の日桃の酒などゝ稱へらるゝことだが、此花に取つては大なる面目で得意顔する處であらう。そこで丁度其桃の節句に當るから少少許り此花の句を擧げて見よう。

厭ふともなく風もなく桃の花　丈阿

櫻などは風を帶びても一種の風情があれど、桃にはそれがない。花の色も枝振りも暑さうに重く垂れて居るのが風と調和せぬ所以であらう。

折ることゝすれば淋しや桃の花　護物

一枝や二枝では眺めになりにくい。是も梅や櫻に劣る處。されど、

白桃や桃の中より冴え返り　振鷺

白い花となると冷然として潔い氣味がある。

白桃や雫も落ちず水の上　桃隣

水を添へれば更に品致がつく。

白桃やもたせかけたる艫の雫　柳居

船頭殿の手にかゝるとやはり卑しい。

白桃や仙ならんとす月五更　紅葉

又仙人に想ひ寄すれば漂渺たる風致も出て來て西王母の國へも遊びさうだ。

曙やことに桃花の雞の聲　其角

是は桃源の景で、一泊した漁郎が朝の夢覺めた情況であらう。

板橋の宿場通れば緋桃咲く　戯道

赤い花はどうしても下卑て、白粉剝げた寢亂れ髮の娼妓も目に見えて來る。

藁家の後に桃の眞赤なり　狸伴

最もよく調和するのは田舍の景である。

尤も、

喰て寢て牛になりたや桃の花　蕪村

斯う放膽に磊落に歌へば別種の興味も生じて寧ろ品格が附く。是には白赤いづれでも好いが、普通の桃色が一番暖かにして好さうだ。

富士の笑ひ日に／＼高し桃の花　千代女

暖かみより山の笑ひに配し、それを富士の山としたのは頗る奇想。

餅喰はぬ旅人はなし桃の花　支考

旅路には此花も一つの眺めで、力餅など云ふ名物を喰ひつゝ。

代官の幕いかめしや桃の宿　百明

旅の宿もお役人樣は面倒だ。宿の主の頭をピョコ／＼下げて奔走するのも聯想に入る。

鯛を切る鈍き刄物や桃の宿　凡董

御饗しの支度にや。

打背き木を割る桃の主かな　白雄

花なぞはそつち除け。

商人に吠る犬あり桃の花　蕪村

門前は門前で此騷ぎ。それを

爺婆の寢所出來て桃の花　樗堂

隱居さん達は流石に氣樂なもので、むしろの上の日向ぼつこ。

藪陰に馬の顔かく桃の花　孤屋

馬ものんきな仲間で欠びの一つ位。

一時に蠶は起きて桃の花　端雄

又飼屋の方を見れば桑食ふ音もする。

桃の花笑ふ女の隱れけり　楳老

其工女共歟。

筏から物言ふ桃の伏家かな　三酉

流れに沿ふ里には斯かる事もあるなり。

江に沿て巡れば桃の盛り哉　車大

花見人はぼろ醉ひ機嫌

手折りたる桃取り落す渡し哉　保吉

イヤしまつた。

桃咲くや畠の肌の脫きはじめ　乙由

こゝには警察もなし。

牛ほどの蠅見つけたり桃の枝　抱一

春日遲々。

鶯のしきりに遠し桃の花　一草

梅ほどには親しからず。

桃の奧桃ある雲のうつり哉　蘭更

追々山路へ入つて來る。

桃乞へば斧提げて出る主哉　垣丸

最初は腹立てたかとビククリ

薪ほど折て呉れけり桃の花　鬼守

貰つて却て持てあまし。

むつ／＼と雨持つ河岸の桃の花　長齋

傘がないから歸らうか。

雛祭る都はいづれ桃の月　蕪村

內では婦女子が此日の遊び最中。

桃の花熨斗附けずとも贈るべし　鶯笠

家苞分ける隣もあり。

桃の日や下部酒盛る蒸鰈　白雄

下々も分に應じて節句はするよ。

桃の酒も李白は一斗例の如し　樗良

鼾聲雷の如し。此境佳でよい筆止め。

●箏歌評釋、講談等本號休揭

◉日本技藝女學校と生徒募集　牛込區水道町なる同校は二葉もと子女史を校長とし十年以來の經營にかゝり其の特長とする處は速成を期して懇切を旨とし熱心に家庭的個人的敎授をなすに由り卒業後の成績非常に宜しとの世評あり此の新學期は各科共無試驗にて數十名の生徒を募集する由なり。

◉女子習字通信敎授　市內牛込區市ヶ谷富久町八九番　書家小山旭霞氏は多年の經驗により地方婦人の爲め居ながら習字練習の便宜を計り書簡文其他の文章を書したる肉筆の手本を送附し幾度も添削を加へ至極懇切に習字を通信敎授さるゝ由。

●日本橋箔屋町振替東京壹參貳九八番
正式通信敎授　速成作歌學會　歌學部　語學部　出版部
●明治和歌一萬集（半紙刷）一冊七拾錢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

風馬牛（七）

園蜩

其の後二日經つて、華子から故障が出た、如何いふ故障かといへば、「私が朽木華子になると、光本道子さんの家とは、お月樣と鼈ほど境遇が違ふのに、尙且兄弟姉妹の交際をせねばならんから否だわ」といふのである。けれども「其れは內間だけの事にして、公然は交際しないでも可いから、」と母親は註釋を附けた。けれども、仁兵衛が此の註釋に同意するであらうか？　其れは兎も角も、華子は早く身の光りを世間に衒せたい心が苛急るから、強ひても爭はず、又父親の了見をも確めず、只母親の詞を後日の獨占條件にして、故障を中止して了うた。

翌日になつて、先づ番頭を名代で承諾の旨を中城へ返答せうと云ふから、仁兵衛が今回は驚いた。

「決定る事は決定るが、道子の仕係つた種々の稽古も未だ濟まないのもあらうから、年でも明けてからの事にせんか」と云つたが、母親は承知しない……而して「來年は道子の年廻りが良く無いから、是非今歲の內早く片付けて、其の後で直ぐ華子を嫁りたいのです」と云つて、中城へ番頭を遣つたのである。

早いも早い、其れから三日目に、仁兵衛を急きたてゝ、公然中城へ承諾の返辭をさせて、暗に結納の固めと、結婚の日取とを促した所で、母親は仕度の事に就て又仁兵衛と衝突した。仁兵衛の云ふのは、

「道子は惣領の事でもあり、子息が生きなければ家を繼がすべき者であるから、華子よりも五割方多くの仕度をして嫁らう」と切り出した。けれども、母親は正反對で。

「第一、私は不承不承で嫁るのですから、喜んで仕度をする機勢がない。第二は、朽木などとは異つて、先方に對する釣合の上からも二三荷で澤山です。第三は、多く持たせて遣つても、必ず直ぐに喪くするに違ひないから、其れよりも現金で四五千位持たせて、其れも道子の名義で定期預けにして、私の運判が無ければ取れない樣にして置きたい」と云ふ。「其れでは道子を呼んで彼れの希望も聞いた上中を探つて決定やう」と仁兵衛は強張つて、道子を呼んで聞くと、又々意外

「私は母上樣の仰しやる通りで、四季の著替だけあれば澤山で厶います。お金などは一文も持つて行きません」といふから、仁兵衛は大反對で、其の日は咄が纏らずに暮れて了つた。

翌日も、其の翌日も、仁兵衛夫婦は同じ事を繰り返して居る所へ、貞子が來て先方の注意を傳へた。其の要は「當日は只儀式に背かぬだけの衣服を用ふる事、仕度は結婚時季三ケ月に要する衣類の外持參せぬ事金錢は孔銅一文たりとも持參せぬ事、而して目下は仕係つた仕事があるから、明年春長の吉辰をトして申し上げる」と云ふのである。是れで和國屋の內訌も解決せられたが、母親は只華子を早く嫁りたい爲めに、來春と云ふのに困つて、

「實は道子も來年は年回りが良くないのですから、其れでは、近日結納を濟ませましたら、……併し來春まで宅に置くのも世間體が何ですから、……當日まで先生のお宅にお預かり下さる譯に參りますまいか……」

仁兵衛は愕いた、幾ら媒妁人でも、突然に押し付けた物の言ひ樣である、加之に自分の許否をも聞かずに……と思つたから、

「先生に其樣な御迷惑を願つては濟まないよ、……先方に今歲御都合が不可いと仰しやるなら、明春でも可いぢやないか。」

「其なら華子を先にしますよ。」

「其れは可けない。」

「だッて、彼方は正月と言ふんですもの。」

「其れあ何でもならうぢやないか……此方の事情を話したら、三月や半歲延べられん事はあるまい。」

「イ、エ、先方ではモウ全部その仕度をして居るんですもの……結納こそ未だですが……今更そんな事は云へませんよ」。貞代は、大體母親の心底を知了つたから、

「私の方へお預り申す事は、願つてもお預り申したいので厶いますが、道子さんのお心が……」仁兵衛は其所だと思つて、

「然うですとも、此樣な事を親ばかりの了見で決定る譯のもんぢやあ有りませんから、」其所へ丁度道子が挨拶に來たから、仁兵衛は早速今の話をした。道子も甚だ當惑したが、兎に角母親の心を察して、

「私は何方でも宜しう厶いますが、御都合で何うでも致しませう」貞代は嬉しさうに

「道子さんへお厭で無ければ、私は今日からでもお伴れ申しますよ

（つゞく）

▲愛國文苑▼

⊙和歌□□　雲雀（四月十日締切）故郷の花（四月廿五日締切）　坂正臣先生選

⊙和歌□□　鶯（三月十日締切）桃（三月廿五日締切）　佐佐木信綱先生選

⊙俳句□□　春期雜咏（五日、廿日の兩度締切）　內藤鳴雪先生選

▲愛國文苑▼

嫁入道具
京都夷川堺町
宮崎タンス
電一八二〇番

ちゞれもくせも
二大奇方
もはへうけあい

本法は女髮結師安部歌子女史の多年實地研究したる秘法是迄の使用者を悉く滿足せしめたる一大奇法なり照會者は往復はがきにて申込あれ
東京麴町區三番町六七　小林濟世園

特許 多代田火のし
極少量の炭火で長時間用ひられ
溫度の加減自在にて
和洋の織物に巧妙にきゝめあり
使ひ心地のよきこと眞に無類
一度試用せば其工合忘れがたし
○各高等女學校裁縫科御用
東京淺草區茅町淺草橋際
阿部彥四郎商店
電話 下谷一九二三 仝 三二四八

日本赤十字社病院御用達
蒸熱殺菌牛乳販賣所
本店 麴町區永田町二丁目
乳牛場 豐多摩郡千駄ケ谷町
鈴木牛乳店
電話新橋 一九九五
振替口座 二四二四
一弊店の蒸汽殺菌牛乳は最良の牛乳を壜詰の儘一定の熱度と時間とを計りて殺菌したるものなれば滋養成分の完全なるは勿論消毒後開封せざるを以て黴菌等の浸入する事なく又長時間腐敗の憂なきは壜詰殺菌牛乳の一大特色なり

日本橋區元大阪町八番地

高木與兵衛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

● 宮城茨城兩縣下の讀者諸姉へ

從來宮城茨城兩縣下の讀者諸姉へは支部より本紙を御送り致して居りましたが便宜上宮城縣下は去る一月十五日號より茨城縣下には二月一日號より當發行所から直接御送附致すことに變更致しましたから左樣御承知を願ひます。

愛國婦人發行所

⦿愛國婦人愛讀者諸君へ謹告

▲新聞代集金　は本年度より當發行所より直接發送の分は便宜上三月、七月、十一月の三回に集金致します、其都度請求書を差出しますから豫て御注意を願ひます、尤も御差支なき限り前金にて御仕拂被下候へば尚更ら双方の便宜と存じます。

▲新聞の代金　をお送りになる時は、振替貯金が一番安全確實で、紛失や未着の恐れもなく、其の上郵便賃もいりませんから、御便利でございます。
但振替で御送金になる時は、拂込口座登記料として金一錢必らず御添へを願ます。

▲振替で御送金　の御方には當所から殊更らに受領證を差上ませんから振替貯金拂込受領證を後日の御參考に御保存願ます。

▲郵便切手　で御註文又は御送金の節は必らず一割增にして願上ます。

▲愛國婦人發行所　の振替口座番號　は毎號新聞に掲載してありますが、東京一一三八一番でございます。

▲お手紙の御住所御姓名は明瞭にお認め下さい御轉居の節は、必らず新舊御住所御認めを願ます。

愛國婦人發行所

創立　明治九年
資本金　五百萬圓
積立金　三百廿五萬圓

東京市日本橋區小舟町
株式會社第三銀行
電話浪花　四四二二・四五七一・三七七七・四五六〇
監督　安田善三郎
頭取　安田善四郎
營業部長　清水虎吉
全國送金無手數料
其他銀行一般の業務便宜に取扱可申候

銀座一丁目河岸通（電話京橋八一五・八一六）
帝國貯蓄銀行
飯倉支店　飯倉三丁目
赤坂支店　赤坂表一丁目
四谷支店　四谷大通り
本郷支店　本郷一丁目角
神樂坂支店　牛込神樂坂上
吾妻橋支店　淺草雷門前
須田町支店　神田須田町
米澤町支店　兩國米澤町
品川支店　南品川一丁目
横濱支店　横濱吉田町
代理店日本橋坂本町田中銀行
●一錢以上何程にても御預り最も御便利に取扱ふ●毎月五日迄の御預金には全月分の利子を付すべし

資本金八百萬圓
東京京橋區木挽町
株式會社十五銀行
電話新橋　三〇番・一五三〇番・三一九三番
同日本橋區新乘物町
同　日本橋支店
電話浪花　一九〇一番・三二七四番・三五〇五番
一定期預金　六ヶ月以上年四分
一當座預金　日步五厘
一特別當座預金　同　八厘

東京市日本橋區通一丁目
合名會社森村銀行
電話（特）本局六七三番
電話本局四九八番
定期預金　六ヶ月　年四分五厘
當座預金　百圓に付日步　五厘
特別當座預金　同日步　九厘

有名なる
ハカマヤ
精撰廉價
堅實懇切
裁縫巧妙
染色保證
東京神田小川町
影山袴專門店
電話本局　三八二六番

東京市京橋區新富町七丁目六番地
石鹸製造業
相馬帝國社
常ニ使用スレバ色ヲ美クシ肌ヲ滑ラカク光澤ヲ出ス
本品ノ特色ハ使用ノ際永ク湯水ノ中ニアルカ又ハ紙ノ如ク薄クナルマデ使用スルモ溶ケ又崩レルコトナシ

生徒募集
文部省各府縣受驗科和洋裁縫造花編物袋物ミシン使用法家政學各教授法各科無試驗
三月新學期開始
要規則書は郵券貳錢
私立日本技藝女學校
牛込區水道町三拾二番地

毎日午前八時ゟ午後九時迄院長診察
皮膚梅どくりん病生殖器諸病わきがぢ
東京淺草橋通瓦町廿八瓦町停留場横
中央醫院

婦人病ヒステリー症たむしにきび等婦人諸病
皮膚諸病　梅どく　りん病消渴　ぢ
血の道　子宮病　月やくとまりたる病　子なき婦人
生殖器病　神經衰弱　記憶力減衰陰萎夢精遺精早漏陰茎發育不充分
わきが
▲病狀を記し郵券六錢を送れば其病を速治する專門中央醫院々長處方の特効新藥說明書を送る
東京淺草瓦町廿八瓦町電車停留場横
中央藥院

世の多くの婦人は子宮病の治療を誤て居ないか

一概に子宮病と云ても其種類は隨分多く從つて治療法も種々あるが、一般婦人の自宅治療を見るに甚だ勝手氣儘で服藥は厭だ洗滌は面倒だ、さし藥は因ると病源を考へ藥を適用せず、自己の都合より割出した藥物應用である、爲に内服藥の必要なる症狀に向て外用藥を用ひ、外用藥の必用は内服藥のみを用ゆる矛盾の治療をして、子宮病の不治を嘆く婦人の多きは誠に殘念である津村順天堂の自宅治療法は一藥萬能主義でなく一數種の加減内服藥と數種の外用藥を以て婦人病の根治を保證するのであるが今外用藥中將湯を使用すべき諸症を同病患者に告白す　幸に自己の症狀を考慮して本劑を用ゆれば必ず滿足なる結果を得べし尚詳細を知らんと欲すれば詳しき容體を記して本舖津村順天堂へ申込れよ

●中將湯は婦人病一切の内服藥にて中將球は子宮内膜炎とか白帶、赤帶、こしけ子宮痙攣、子宮加答兒、膣炎、膣加答兒子宮爛糜、子宮惡臭、子宮搔痒、尿意頻促、月經時の疼痛、痳毒性子宮病等の特效あり殊に良夫の痳疾に罹り居る時は痳毒菌の爲に心付かざる内に子宮を害する事多ければ常に中將球を使用して本病を豫防せられよ不妊性と流產、子宮内膜炎の分泌物及び酸性の粘液は精蟲を害し不妊症を起し子宮の炎症は卵の發育を妨げ妊娠するも流產となる事多ければ本劑を使用して病根を斷つ事肝要なり

定價百二十個五圓四十五個二圓二十個一圓九個五十錢三個二十錢本舖は東京日本橋通四丁目（振替口座一六八〇番）津村順天堂です●取次全國各藥店

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫院案內

京橋區

◉院長ドクトル木村順吉
京橋卅間堀一丁目角(電話京橋一六七〇)
婦人科產科木村病院

日本橋區

日本橋區濱町三丁目七番地
電話浪花一六〇番
濱町 產科婦人科 小林病院
院長醫學士小林八十七
醫學士大瀨貴明
醫學得業士杉原格藏

◉產室增築落成
日本橋區濱町貳丁目十一番地
產科婦人科稻生醫院
電話浪花三三四三番

岩佐病院 日本橋區蠣殼町二丁目廿三番地
(電話浪花六七九番)
診察時間 自午前九時至正十二時
內科婦人科 院主 岩佐純
內科 院長ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
產科婦人科 醫學士 佐久間兼信
腦病脊髓病 醫學博士 土田卯三郎

神田區

產科婦人科一般
神田區佐久間町二丁目十七番地
松岡醫院
電話下谷三七五六番

東京神田區美土代町三丁目十七番地
內科一般 午前宅診 午後往診 **板垣亨**
電話本局貳千九百七十番

院長診察、月、水、木、金、午前、入院、診後應需、松田、林、峰間三副長八目下當院ニ在勤
電、本八八八番(病院用)八九八番(私宅用)
東京神田區駿河臺鈴木町二番地
(御茶水橋附近)
東洋內科醫院
院長 醫學士高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱
(從停車場半里)
電、チカサキ二番
南湖院
河野、高橋、兩副長八目下當院ニ在勤、院長診察土曜日午後、入院、診後應需、

耳鼻咽喉科
神田區美土代町一丁目十六番地
醫學士 榊田義衛
電話本局三一九〇

麴町區

醫學博士 榊順次郎
醫學士 久保德太郎
醫學士 田代謹二
每日午前診察 日曜水曜午後 婦人科的外科 火木土曜日午 泌尿器病及內科
●施療火木土午後自一時至二時
●施療姙婦產婦ヲ取扱フ
婦人科產科 榊病院
麴町區三番町三三(電話番町三九五)

內科診察 宅診午前及夜間九時迄 往診午後
麴町區四番町四番地(電話番町貳三八四)
醫學士 中山敏樹

鷲山改姓
產科婦人科小兒科 **女醫 吉岡彌生**
診察時間 院長 每日午前八時より 醫員 每日午後三時より

內科部長醫學士武智基造
診察時間 火木土午後壹時より
病室及產室の設けあり入院隨時
東京市麴町區飯田町四丁目卅一番地
東京至誠病院 電話番町二二五七

小石川區

◎產科、婦人科
◎內科。小兒科
小石川西江戶川二六
電話番町(一四二六)
森種太郎

牛込區

○婦人科○產科○
飯田橋電車停留場脇
中島襄吉

產科婦人科 小兒科
牛込區納戶町三六
電話番一〇四〇番
野中醫院

內科橋田病院
(錦町三丁目電車停留場側)
●隔離室設備(診察午前 入院隨時)
院長 醫學士 橋田茂重
病院 神田錦町三ノ九(電本二三三九)
自宅 牛込甲良町一一(電番一九六)

淺草區

◉小兒科殊に營養障害
淺草下平右衛門町十七
內山小兒科醫院(電下二參六五)
院長ドクトルメヂチーネ 內山好十

內田病院
淺草區新福井町二(死町電車停留場際)
病院落成に付隨時入院の需めに應ず
小兒科專門 院長醫學士 內田愼太郎
(午後診察) 副院長醫學士 瀧原五郎
(電話下谷七一八)

芝區

◎產科婦人科
芝明船町十九虎門外
電話芝二六四二番
櫻井克巳

◉產科 ◉婦人科
(午前宅診 午後往診 入院隨時)
芝白金志田町五七番
魚籃坂下(電芝五壹貳)
野口醫院

本鄉區

婦人科 產科
醫學博士 千葉稔次郎
醫學士 中島襄吉
醫學士 櫻林格造
本鄉根津 **眞泉病院** 下谷電四三九
內科
醫學博士 栗本東明
醫學士 野村華造
醫學士 白川彌源太

下谷區

…(診察時間)…
○產科、婦人科 入院應需
月、水、金午前 橋爪病院(濱花二六〇番)(日本橋區龜島町一の廿九)
每日二時より五時迄 自宅(下谷二四八七) 本鄉區眞砂町十五番地
醫學士 橋爪哲造

產科婦人科天本醫院
下谷區仲徒町二丁目卅五番地
院長 醫學士天本治
(入院隨意) (電話下谷二六六九)

赤坂區

腦神經精神病
東京赤坂
青山病院
帝國腦病院
院長 ドクトル 醫學士 齋藤紀一
醫學士 田澤秀四郎
望月溫象
電 特芝二七四五 芝二六六五

府下

腦神經精神病科
東京龜戶町電話浪花二五五二
加命堂腦病院

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側
御影堂 **持阿彌**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

✚ 施藥救療の勅語を拜し慈善藥價を呈供す

特別取次所　東京市麹町區飯田町　日本赤十字發行所

橋本子爵岩佐男爵記念薬たる救世丸壯婦丸は曩に辱くも
帝國在郷軍人會總裁 伏見宮殿下 日本赤十字社總裁愛國婦人會總裁 閑院宮兩殿下の
御嘉納を蒙り深く恐懼罷在候處今回紀元節に際し恐れ多くも
勅語を賜り無告の窮民に施藥救療の 御下賜金あり我々製藥の業にある者聊か奉答の微志を表せんが爲め當分
左の主旨により報効の一端に供せんとす幸に諒せられん事を乞ふ
慈善 ○勞働者又は窮民には其申出の事情により破格の藥價にて求めに應ず
○官公私立學校生徒薄給の官公吏會社銀行員在郷軍人會々員軍人後援會員赤十字社々員愛國婦人會々員等には一割引となす事
藥價 ○送料不用○軍人、遺族、癈兵又は愛國婦人會員愛國婦人愛勝の諸姉にして御希望の方は該發行所へ御掛合なされたし

故赤十字社院長醫學博士橋本先生處方
胃腸肺病 原因療法
救世丸
强力なる消化、殺菌、防腐、滋養の作用を具備し、胃腸を健全ならしめ諸傳染病を豫防するに卓効あり

宮内省侍醫岩佐病院主岩佐先生處方
婦人諸病 民間療法
壯婦丸
ヒステリー、子宮病、產前、產後、血の道一切、又めまひ、頭痛、不眠便秘、神經衰弱等には男女共に偉功あり

販賣取次は本舗又は特約店へ申込るべし◎全國藥店にあり○効能書贈呈
藥價　試用瓶參拾錢　小七拾錢　中壹圓參拾錢　大壹圓八拾錢
藥價は爲替又は振替貯金にて御送金ありたし

東京深川公園　本舖　合資會社 福井堂　電話浪花五六九　振替東京二三六六

嫁入　京都高辻高倉　大伴タンス問屋　電三五八〇　道具

ちゝぶ伊勢崎めいせん
帶地類其外太物唐物
人形町通よし町　赤のれん
おばなや本店
めりんす友染新がたは
本店の向ふまへ
おばなや
めりんす店

苟も美容たらんと欲する諸姉は先ず
ラローラーレ
Lait-Larola
を愛用せざるべからず

此化粧用美容劑は冱寒、寒風、硬水に堪ゆる様皮膚を保ち凍瘡、ヒビ、アレ、アカラ顔等を防ぐに尤も妙にして且つ皮膚を柔く滑に色白く若やかにす四季を通じて皮膚を細かに完美にす

製造所　英國セルテンハム、エムビーサム、エンド、サン商會

各地著名の化粧品店にて賣捌く

M. BEETHAM AND SON,
CHELTENHAM, ENGLAND.

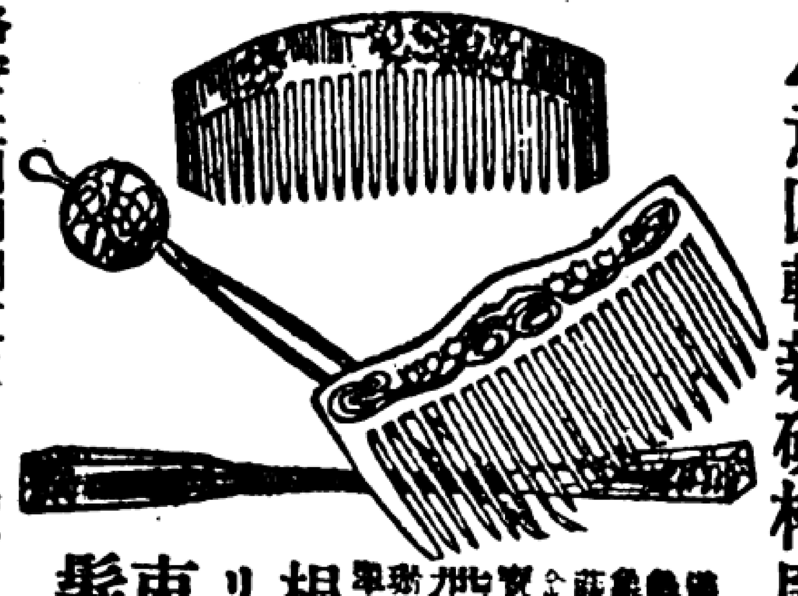
婦人世界
三月一日發行 六卷 第三號 一冊 拾五錢 郵稅一錢 半年分 五十錢 郵稅共 一年分 壹圓 同 二五錢

◎嫁と姑の別居論　山脇房子　鳩山春子　棚橋絢子　目賀田夫人　川瀬富美子
◎貧乏神の話　講師 武田　◎お彼岸の御馳走　弦齋夫人
▽卒業式の答辭は何のために讀むか　下田歌子
◎令孃訪問　婦人記者　◎義理堅き京都の女中
◎人情論　愈よ出て愈よ天下を驚かす　村井弦齋
◎髪を美しくする法　伊賀とら　◎小兒病の豫防　加藤博士
▽柳行李を負ふて出世の旅　村吉鐵之助
◎家庭衛生談　村井弦齋　◎家事經濟執りかた　嘉悦孝子
◎淀君論　坪内博士　塚原澁柿　饗庭篁村　嚴谷小波　大町桂月　伊原靑々園　村田丹陵　麻生正藏　岡部文學士　小金井君子　その他

發行所　東京京橋南紺屋町　實業之日本社　（郵便振替貯金口座二三六番）　全國賣捌書店

胃病良藥 太田胃散

▲意匠斬新破格廉價札付



儀式用櫛笄　鼈甲櫛中差　象牙櫛　蒔繪櫛　銀鉄指輪　金入寶石簪　帶止ピン　翡翠珊瑚電球根掛　リボン　束髪三枚櫛

格安土州珊瑚直取引市價よりは三割方廉價御便利爲御持古るしの小間物引取り候　東京市神田須田町（電話本局二一〇七六番　振替口座二八一番）
鼈甲小間物商　三井屋德次郎
京橋新肴町勸業博品館内支店　神田美術館保町東明館内支店

最上醬油　品質優等ニシテ調理ニ適ス
醸造元　千葉縣銚子町　濱口吉兵衛
發賣元　日本橋區小網町三丁目廿七番地　濱口吉右衛門

宮内省御用達
最上醬油之元祖
上 十
開業貳百六拾七年
醸造元　下總銚子町　濱口合名會社　振替貯金口座五〇貳壹番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

皆様（みなさま）
今日もまた丈夫で元氣で心から愉快に「暮す様」
「ゼム」を今すぐ召上れ

消化と毒けし
ゼム
懐中良薬
口中香錠
到る所の賣藥化粧品店にあり

半衿　帯揚　帯〆　帛紗　伊達巻　るい
京都京極四條角
ゑり清
電一九三〇

良薬にして口に甘し
たんせきに
すきはらにめし
あさだあめ
淺田飴
たんせき　ひきかぜ　はいびょう　よろしき　台にし
定價　金五錢　金拾錢　金貳拾錢　金五拾錢
東京本店　堀内伊太郎　大阪支店
取次賣全國藥店

最新流行
美術簪櫛
袋物小間物類
束髪用品
和洋化粧品
香水石鹸
東京日本橋通
よし

專賣特許
衣裳中入吹留眞綿
登録商標　吹留眞綿
男女着物羽織用等種々あり
價格は輕目重目に依り六十八錢より
品質純良使用輕便且經濟なり
東京銀座四丁目
大和屋綿店
東京麻布新堀町
吹留眞綿製作所
販賣部
足袋中ばき
實用新案足袋中ばき此他細工品種々
シモヤケに特効あり又鼻緒づれの患なく
普通より足袋を二倍保たせ防寒と經濟とを兼備せり價拾七錢

ピアノ　オルガン　ヴァイオリン　ハーモニカ
西洋樂器各種
音樂圖書出版發賣
新版目録無代進呈
松本樂器合資會社
東京銀座

金婚正宗の名譽
畏くも東宮殿下御買上の榮を荷へり
●御進物用には至極好適
優等清酒金婚正宗の品質純良なるは既に定評あり而も價額尤も低廉也
●御常飲用には樽詰もあり
宴會用御瓶詰あり
瓶詰箱入
各洋酒問屋にあり

發賣元
神田美土代町二丁目角
豊島屋本店
電話本局一七五四番
三八一一番

頭髪の美！頭髪の美！
生髪を増殖し、健全にし且つ美しき光澤を保たしめんとせらるゝ方は必ず先づ此毛髪洗滌液
ペトロール、ハーン
を使用せられよ
本品は目下歐米到る處の貴婦人、令孃間に尤も愛用せられつゝあるものにして毛根の腐を防ぎ光澤を増しフケ、カユミを去り脱毛を再生せしむる神妙なる特効あり、而かも何等の危險なく馥郁たる香氣を有し使用後極めて快感を覺えしむ眞に理想的のものなり
代價　小瓶一圓廿五錢　大瓶二圓
日本代理店　横濱市山下町七十番　エー、ハイム商會

各國著名製造玩具
直輸入
伊東屋
オモチヤ
めづらしき教育玩具澤山新着致居候間多少共御用事願上候
東京銀座三丁目
伊東屋玩具店
電話京橋二五二三
口座二〇四四五

當師は宇宙萬象眞理に基き過去現在の出來事及び人生の運命を當視し未來の方針を至からしむを目的とす
遠國希望の方は通信生年月を明確に申込まれよ
麹町山王下電車通り
赤法師
執事

最上醤油
於日英博覽會
賜名譽大賞牌
下總銚子港
醸造元
鶴屋吉兵衛
カギダイ
到る所の酒醤油店に販賣す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人画報

三月一日發行　三月の巻　價金廿五錢　郵税二錢　半年前金一圓五十錢　一年同二圓八十錢　郵税八錢

讀物

不健全な思想……中島博士
家庭の眞意義……浮田博士
兒童の保護……小河博士
婦人と暴言……上杉博士
廣義の節操……安井哲子

▼婦人と境遇……宮田脩
▼芝居と女……鹽谷小波
▼雛の教訓……高島平三郎
▼少女と人形……岸邊福雄
▼英人と我婦人……秋元春朝
▼貴婦人訪問……記者
▼女學校教員室一時間……
▼其日々々……三宅花圃

畫報

桃……梶田半古筆二頁大三色版美人畫附錄
閑院宮殿下御新築の御殿……
沖繩に於ける兩殿下
柳原典侍と其筆蹟……
雛遊びの今昔◎うれしさう……
姫宮殿下の御登校
益田孝氏邸と和洋の應接間
珍しき雛のいろいろ
故大谷籌子の方と葬式光景
伏見宮殿下御培養の珍花

◎海苔の製法順序……
◎女學生と大根……
◎名譽の預撰歌……
◎夫婦まき日韓まき……
◎各地人形
◎趣味ある盆栽……
◎三婦人會の開催……
◎二高女展覽會……
◎令孃郎と新婦
◎新造花は如斯出來る
◎花の如き夜會……
◎作法の栞……
◎愛馬の踊と仕舞……

東京飯田町四ノ四　東京社　番町二三三九　振替一一八一八

讀物

家庭と調和……中島徳藏
婦人美の根本義……下田學士
靜御前論……建部博士
娘の卒業後……中野武營　高松博士　吉武學士

▲皇后陛下御歌
▲食物貯藏……西村學士
▲婦人と法律……川名博士
▲月々の遊覽……紅蓮洞
▲雛祭り……藤懸學士
▲訪問……中島
▲新案束髮……
▲流行……
▲女中色々

すきとうりたる
水にて付ると白くなる流
行の薄化粧料にして
水晶おしろい
目立ぬ故男子にも用ひられる

定價　五拾錢　貳拾五錢　拾五錢

本舗東京　大和屋

曩きに村井弦齋先生の賞讃を博し今又宮内省御買上の光榮を得たる

東京人形町通　三宅堂本舗
長電浪花六二〇番
振替口座東京八七五番

衛生に注意の男女方は彼れ是れ迷はずにみやけ油を御用ひなさい模造品四方にあれば長髮美人商標と東京人形町みやけ油本舗製に御注意信用ある店に販賣す

三月廿五日より
◎第三回兒童博覽會
四月一日より
◎第廿一回新柄陳列會
◎寄切、見切反物大賣出し
◎現代大家作半切書陳列會
◎懸賞裾模樣圖案の陳列
◎懸賞寫眞『家庭』の陳列
右何れも特別盛大に開會仕り候間御來觀のほど奉願上候。

東京　三越呉服店

超然俗塵を脱せる上品な讀物

女學世界

三月一日發行　第拾壹卷第四號　正價廿錢　郵税二錢　前金四冊七十五錢　八冊一圓四十五錢　外に郵税要す

△心の束縛を脱する工風……大内青巒
△千鶴子に對する最後の透視……福來博士
△婦人の人格を認識せよ……遠山霞
△贅澤に流たぬ衣裳競べ……小柳夏村

◉平凡の裡に無限の教訓を得る妻の日常……松風琴
◉垢ぬけのした奥様……浮葉
◉奇特の孝子マルコ……淡路揺
◉切廻しの上手下手……胡蝶
◉新徒然草……磯千鳥
◉春の鳥の異れる趣味……物集梧水
◉南洋島王の妃……双松庵
◉純粋なる母親の感情……中川謙二郎

△人の榮華を羨まぬ餘裕……伊澤夫人
△現代婦人評論（一種の女）……鐵拳禪
△日本印象記……中村春雨
△雜記帳……與謝野晶子

東京本町　博文館

愛國婦人廣告取扱

神田三河町一ノ九 報知堂
京橋區宗十郎町一七 正路喜社
愛國婦人海外廣告一手取扱

京橋區南紺屋町一 星社
神戸市元居留地仲町三八 東洋廣告取次會社

神田須田町廿七 金蘭社
京橋區廣告社

家庭百科全書

全部五十册

■正價每編四拾五錢（郵税八錢宛）○和裝美本石版口繪及紙折附

東京 博文館

第廿七編

衣服の調整

衣服を調整するは一家の主婦の處理すべき重要の事なり此書は身分年齡に依りて地質縞柄の好み四季折々の流行を酌み、裁縫の道より禮式作法に亘りかねて衣服の保存法洗濯法まで隈なく詳述したる家庭必備の重寶なり。

石篁園君著
密畫數十個挿入

第廿八編

洋樂手引

此書は主として一般好樂家の爲めに洋樂の修練上將た鑑賞上に必要なる事項を平易通俗に說述し以て其參考に供し洋樂の根本的修養に資せんとせるもの家庭の讀物として洋樂普通の智識を得んとする人の絶好侶伴なり。

東京音樂學校助教授 前田久八君著

第廿九編

兒童訓話 母の智識

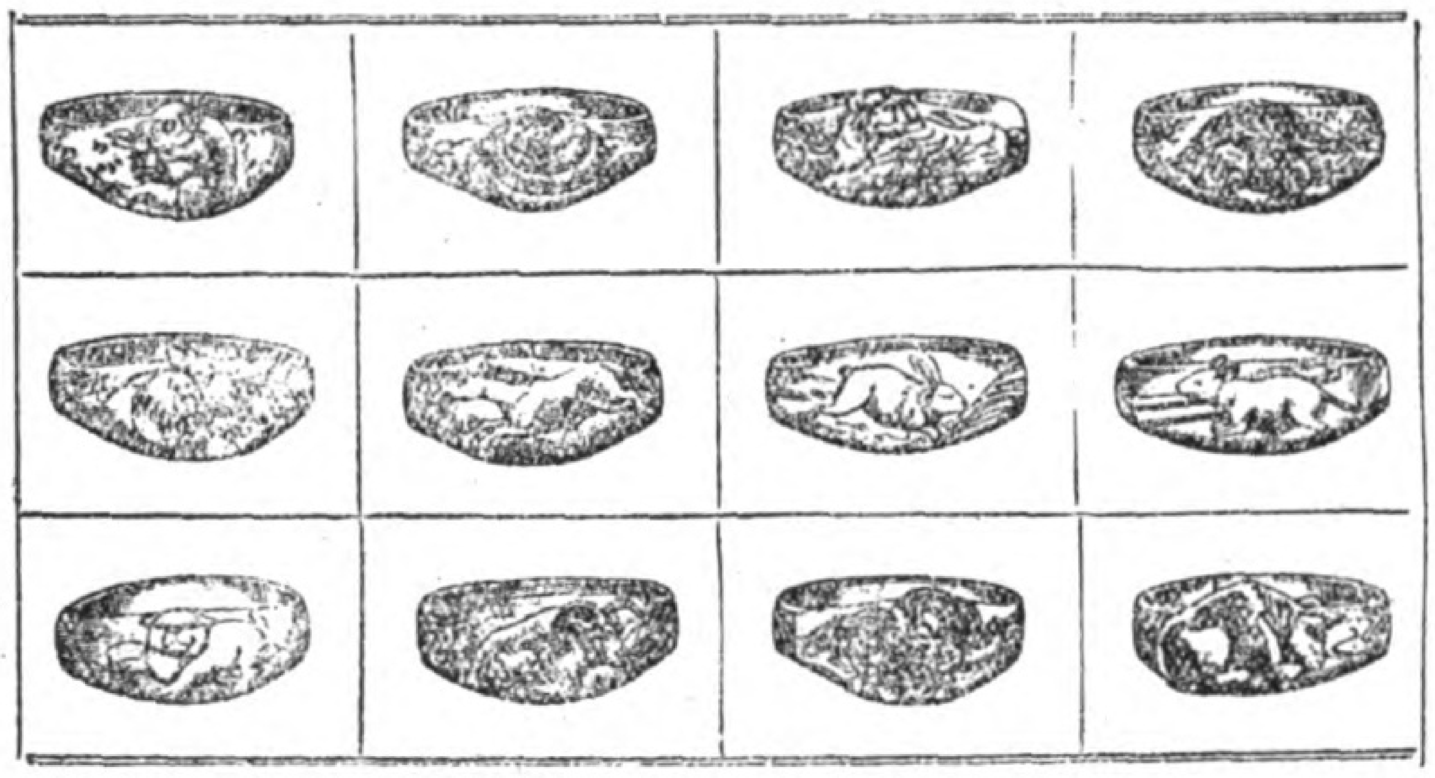
此書は世の母姉諸君が子女の質問に答へらるゝ資料として四季の日常問題に就いて編纂し專ら自然科學に重きを置き幼年兒童の腦裡に敎育上最も緊要なる事項を興味ある筆を以て簡單に記載せる子女訓育上の最大益書也。

少年世界記者 木村小舟君著

日本輸入品に限り包裝紙に斜に『アイボリー』石鹼と記入し一見模造惡質石鹼と判別に容易ならしむ
御購求の節『アイボリー石鹼』に御注意を乞ふ

●東洋一 製造大販賣 卸し 小賣
◎夜具蒲團 綿類 ざぶとん
外濠線駿河臺下停留場前
諸官省御用
や
神田表神保町二
矢田本店
電話本局二〇一八番
市内無賃配達
●階上 縱覽御隨意 珍柄高等品澤山有り
●綿質保險附●確實大勉强●正札引なし

十二支圖高彫 廿金指環
價拾五圓均一



東京市京橋區尾張町二丁目
時計及寶玉類貴金屬美術品商 天賞堂
電話新橋特長 一八三 二五二 三六三

私立 女子美術學校
生徒募集
東京市本鄉區菊坂町（電話下谷二二一四）

歌書刊行會校

上等和紙印刷優美製本

和歌八代集

古今集二册 後撰集二册 拾遺集二册 後拾遺集二册 金葉集二册 詞花集二册 千載集二册 新古今集四册 井上博士校訂
各集分賣

完成 全拾六册
正價九圓九拾錢
小包税貳拾四錢

歌仙家集

完成 全六册
正價參圓六拾錢
郵税拾貳錢

本會顧問 文學博士 萩野由之君 鎌田正夫君 醫學博士 井上通泰君 伯爵 柳原義光君 子爵 相良賴紹君 下田歌子女史 子爵 渡邊千秋君 芳賀矢一君 大口鯛二君 柳田國男君 佐々木信綱君 醫學博士 森林太郎君

目下第二期事業トシテ
近藤芳樹翁遺著 萬葉集註疏
中山美石翁遺著 後撰集新抄
藤井高尚翁遺著 古今集新釋

御歌所寄人井上通泰博士監督ノ下ニ毎月貳册を刊行し既に十册を出したり是皆故人が心血を灑ぎて述作せられたる名著なれば斯道學者の益を得ること極めて多かるべし
刊行會は其完結を誓ふ

◎刊行會趣意書規定及見本ハ往復はがきニテ申込マルレバ直ニ郵送ス

●發賣所 東京市本鄉區龍岡町 聚精堂
電話下谷一四〇七九 振替東京三〇五八番 一六七二

女子文壇

三月號
一日發行 美裝
價 一料拾五錢送一錢 半年分（八册）壹圓參拾四錢

人間の觀察▲精神病に罹りさうな人（吳博士）▲容易いやうでむづかしい（鳴雪）▲顏を見れば人物が分る（嶺雲）▲男子の觀察を誤る（紅綠）◎男女の自由交際はまた早い（麻生正藏）◎松浦佐用媛（泡鳴）◎蘇生（夜雨）◎雛の顏（時雨女史）◎短歌評釋新派の心持（楊谷）◎創作◎雜錄其他

東京京橋區大鋸町　女子文壇社出版

少女

三月號 一日發行
美い挿畫澤山
定價拾錢 郵送一錢

（小說）◎廿四孝の繪本◎梅咲く日◎二人やんちやん◎迷ひの路◎（科學）◎雲の話◎誰にでも出來る青色寫眞（編物）毛糸の帶止（書方）と足袋編方（解）と姉妹外面白い懸賞ものいろ〳〵

明治四十四年三月一日發行（毎月二回一日、十五日）
（定價金三錢五厘一ヶ月金七錢郵税不要）發行兼印刷人 山澤俊夫　發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人會發行所　印刷所 東京市小石川區久堅町 博文館印刷所
廣告料一行金六拾錢、編輯人 竹内眞三　●電話番町千七百四十五番　●同五百二十番　●振替貯金口座東京壹壹三八一番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

附録 愛國婦人會記事

本部記事

▲理事參事會及第十回總會準備委員會　去月八日、本部樓上に於て理事、參事會及第十回總會準備委員會開催し理事、參事會に於ては東京癈兵院入院者家族舍の件、總會準備委員會に於ては記念品其他の件に就き種々協議あり午後四時散會したり。當日の出席者左の如し。

阿部副會長、理事濱尾作子、同棚橋絢子、同三輪田眞佐子、參事會員山脇房子、同古市幸子、同關郁子、評議員鳩山春子、同尾崎八重子、同岡田德子、同大久保榮子、同渡邊源子、同松村琴子、同松崎悅子、同下岡まつ子、同仁杉歌子、

▲四十三年度會費決算　去る二月十八日迄に四十三年度會費本部へ決算濟の支部左の通り、

一月十六日着 宮城支部
同廿一日 朝鮮支部
同卅一日 德島支部
二月二日着 石川支部
同四日 北海道支部
同六日 山口支部
同七日 大分支部
同九日 福岡支部
同十五日 福井支部
同十六日 高知支部
同十八日 愛知支部
同 奈良支部

一月十八日着 新潟支部
同卅一日 滋賀支部
二月二日着 京都支部
同三日 埼玉支部
同四日 千葉支部
同六日 函館支部
同八日 岡山支部
同十五日 神奈川支部
同 沖繩支部
同十六日 岐阜支部
同十八日 山形支部

以上各支部の內會員は少數なるも其の成績最も良好なるは沖繩支部にして、又福岡千葉愛知新潟山口鳥取等比較的成績良好なり。

▲故奥村五百子刀自法要　去る二月七日は故正七位奥村五百子刀自五週年祥月忌日に付き淺草本願寺に於て法要を營み、理事濱尾作子、評議員關郁子、評議員原口關子、評議員新山雅樂子、三井、打越兩事務員、東京支部主任幹事橫幕武良子、同幹事中澤久米代子、同酒井季喜子、同村田うた子、同主事後藤隆、及並木同事務員等の諸氏參詣され懇ろなる讀經供養ありたり、因に當日本部よりは香料及生花一對を靈前に供へ、又東京支部及仁杉評議員よりも香料各一封を納められたり。

▲教養生募集　本年度本會教養所生は東京、大阪、埼玉、千葉、山梨、青森、秋田、島根、岡山、山口、和歌山、德島、高知、大分、長崎、宮崎、沖繩の十六支部より各二名宛、宮城、茨城、栃木、奈良、岐阜、長野、宮城、岩手、山形、福井、函館の十一支部より各一名宛、合計四十三名を募集する事に確定し、各支部に向け夫れ〳〵通牒したり。

●教養所記事（一月分）

▲新年祝賀式と廻禮　寮生一同は整裝して各授業學校の新年賀式に列し歸寮後更に道場に於て職員一同と元旦の式を擧げ終りて寮監より一場の訓話ありたり。

二日職員引率の下に寮生一同は皇城及東宮御所を遙拜し次て會長、副會長事務總長の各邸へ年賀のため廻禮したるに孰れも親ら接見の上賀詞を受けられ且つ茶菓を惠與せられたり。

▲擊劍稽古初め及寒稽古　五日中山講師の有信館に於て擊劍稽古初めの式あり、寮生及職員一同之に招かれて參列せり。

十三日より向ふ卅日間の豫定を以て每朝五時より寮內道場に於て擊劍寒稽古を開始せり。

▲師範學校入學の受驗　中學校第二學年生秋山末次郎金子漸同第一學年生山脇芳太郎の三寮生は府立青山師範學校へ入校志望に付之を許可し廿三日受驗せしむ未だ成績は不明なり。

▲訓話と御伽噺　八日午後元寮長大原武慶氏來所し寮生一同へ對し今般寮長を辭職せしことを披露し一場の訓話を爲せり。

廿二日趣味講話會員櫟太仙秋葉正道天野雉彥等の三氏來所して寮生の爲め御伽噺を爲したり。

▲寮生の上京復校　昨年末歸省せし陸軍中央幼年學校豫科生徒松本廣三富永順太郎の兩人は六日上京直ちに歸校せり。

▲寄附　菓子袋入六拾壹個寮醫馬島永德氏より寄贈せられたり。

▲衛生狀態　廿一日より寮生一名流行性感冒に罹り之が爲め他寮生に傳染し一時同患者十三名に上りたるも其後次第に全癒し廿九日に至り全く絕滅せり。黑川寮生は引續き東京病院へ通院治療中なれ共病症名は未だ確定するに至らず其他は腫物及底豆患者等四名あるのみ。

東京支部

▲評議員會　去月十五日評議員會を本部樓上にて開催し左の議案を決議せり。

一、議案第一號　支部細則制定の件　明治四十四年六月一日より施行
一、同第二號　主事委任事項制定の件　同二月十六日より施行
一、同第三號　給與規程制定の件　同二月十六日より施行
一、同第四號　賞與內規制定の件　同二月十六日より施行
一、同第五號　評議員會規則制定の件　同二月十六日より施行
一、同第六號　專務幹事選擧規程制定の件　同六月一日より施行

岩手支部

▲評議員會　一月二十六日當支部評議員會を岩手縣廳內に開き支部長並顧問、岩田、時實兩相談役、永田支部副長、岩田外九名の評議員出席四十三年度經費決算並に四十四年度收支豫算其他重要事項に付宮地主事より詳細說明を爲し滿場一致を以て原案を承認せり、畢て午餐を供し歡談數刻散會したるは午後二時頃なりき

愛國婦人會朝鮮本部長
政務總監夫人　山縣隆子氏

長野支部

▲支部の奮勵　今回　聖上陛下より御內帑金百五拾萬圓下賜あらせられ、窮民施藥救療の資に充つべき旨仰出されたるに就ては、益々本會主旨の貫徹を圖るべく、去る十八日附を以て各幹事部に向け左の通り通牒を發したり。

拜啓本月十一日紀元の佳辰をトし御內帑金壹百五拾萬圓を御下賜あらせられ窮民施藥救療の資に充つへき旨仰せ出されたるは今更なから各位と共に聖恩の廣大無邊なるに感泣措く能はさる所に有之候就ては本會の目的たる戰歿軍人の遺族並に癈兵中生活困難なるものを救護するにあれば聖勅に宣示し玉へる無告の窮民を保護救恤するは唯一の事業となすものに有之候玆に於てか本會も御聖旨を奉戴し愈々救護の實蹟を擧げん事を努め更に世情民心の同情を喚起し目的を誤らず益々救護事業の發達を期し度而して此事本會の夙に腐心する所に相之候へ共自今一層救濟の好果を收め兼て御聖意に副ひ奉り度奮勵罷在候に付ては必竟救護資金の充實を計るの外無之其充實を謀らんには自然婦人の赤誠に俟つの外無之候に付豫て御依賴に及置候次第も之有候間各位に於ても宜しく御施設相成益々會務の發展を期せられ精々御盡力に預り度此段及通牒候也。

明治四十四年二月十六日
愛國婦人會長野支部長大山廣子

各幹事部長殿

追伸
軍人遺族並に癈兵中生活困難にして而も醫藥の資に窮し病臥中のもの有之候へば御取調相成御報告次第本會例規類集第百十三頁第十六條により臨時救護可致に付右御諒知相成度尙本文趣旨貫部內幹事委員並に會員諸姉へ相達し候樣御配置相成度申添候也。

千葉支部

▲町村聯合委員區總會　二月五日當支部夷隅郡古澤村千町村國吉町長者町中根村瑞澤村聯合の小作米及堆肥薰炭肥料其他品評會を兼ね日本赤十字社聯合分區總會及愛國婦人會聯合委員區總會を古澤村桑田天王原に開きし に關係町村の職員は勿論社員會員及軍人遺族癈兵並に出品人等の來會せる者

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無慮千餘人に及び赤十字社支部より永井常務幹事佐久間書記愛國婦人會支部より副長下山夫人富田大杉兩事務員赤十字社委員部より山田委員長愛國婦人會幹事部顧問を兼ね尙は大坪長野兩事務員等臨場午後一時品評會褒賞授與式を擧行し了りて左の順序に依り分區委員區の總會に移り午後三時過ぎ閉會を告げ極めて盛會なりし。

一、社員及會員等一同指定の位置に整列
二、分區委員兼委員區委員先導副長其他委員長臨場
三、來賓着席
四、分區委員兼委員區委員開會を告ぐ
五、分區委員兼委員區委員兩總裁宮殿下の御寫眞を開扉す（一同最敬禮）
六、分區委員兼委員區委員明治卅七八年戰役ニ關シ賜リタル勅語及令旨奉讀（一同最敬禮）
七、君ケ代（吹奏）
八、兩支部長告辭
九、委員長顧問告辭
十、來賓總代祝辭
十一、參列遺族癈兵四十二名に對し支部より菓子料贈與
十二、分區委員兼委員區委員答辭
十三、分區委員兼委員區委員兩殿下の御寫眞閉扉す（一同最敬禮）
十四、分區委員兼委員區委員閉會を告ぐ
十五、分區委員兼委員區委員先導副長以下退場
十六、社員及會員等一同退場

静岡支部

●明治四十三年度事務成績●

▲會員增減

■、佩有功章者

本年末現在二百三十六人にして女子男子及其の異動を區別すれば左の如し。

（女子）四十二年末現在員百七十四人にして本年中授與五人轉入二人を增し轉出三人を減じ四十三年末現在員百七十八人なり。

（男子）四十二年末現在員五十七人にして本年中授與三人轉入一人を增し轉出二人死亡一人を減じ四十三年末現在員五十八人なり。

■、特別會員及通常會員

四十二年末現在員二萬七百十八人にして本年中の入會異動等を增減するときは四十三年末現在員二萬七百五十五人となる其の異動を區別すれば左の如し。（左表略す）

■、贊助員

四十二年末現在員二十二人にして本年中增員十七人減員三人を加除し四十三年末現在員三十六人なり。

▲會費納付の情況

當支部會費收集に關しては四十一年度の成績に對し本會より特に金杯贈與の名譽を博したるも四十二年度は種々の影響より其成績稍々不良なりしを以て本年度末を期し鋭意之が整理を計らむとするの時に當り偶々水害の災厄に遭遇し遂行上困難の場合に至りしは甚遺憾とする所なり而して其の步合を前年度に比較すれば四十二年度年末に於ける現在會員一人に對する收入額七十三錢二厘强に對し本年度末は七十七錢三厘强に當り、尙又前年末現在會員の醵金年額一圓に對する收入額七十五錢九厘强に對し本年末は八十錢六厘强の計算となれり。

▲寄附金

本年度の寄附金は支部費指定金三百九十二圓にして其の內譯及人員左の如し。

金三百圓　百圓宛三人
金三十八圓　一人
金三十四圓　一人
金二十圓　一人

▲救護金贈與額及其人員

■定期救護金

本年度總額金二千七百七十六圓內金二千三百三十六圓は人員五百十四人に對し贈與を了し差引殘額金四百四十圓は目下贈與の手續中なり。

■臨時救護金

本年八月縣下洪水に際し被害者中生活困難なる遺族癈兵百一人に對し左の金額を贈與せり。

一金八百二十五圓　贈與總額
內
金二百九十七圓　本部より支出額
金五百二十八圓　支部より支出額

▲事務主要の事項

■、本年八月縣下洪水に際しては遺族癈兵中被害少からざりしを以て當支部は急速調査に着手し臨時救護金を贈與して應急救護に務めたり。

■、九月二十四日幹事部長會を開き左記事項に就き協議をなしたり。
一、遺族癈兵異動調査報告の件。
一、定期救護金贈與標準の件。
一、會費收集並會員增募の件。

■、同月同日當支部彰功規程に依り四十二年度の成績に對し左記幹事部に彰功旗（銀杯一個）を授與せり。
静岡市幹事部（會員步合優等）
引佐郡幹事部（會費收集步合優等）

■、本年中支部會計檢査は三回にして又七幹事部の會計を檢査せり。

■、本年中當支部諸規定の改廢左の如し。
四月五日、静岡支部彰功旗並銀杯製式を制定す。
八月十三日、静岡支部給與規程を制定す。
同、静岡支部幹事部職員旅費規程を制定す。
同、静岡支部職員旅費支給例を廢止す。

■本年度支部經費の收支並剩餘金左の如し。
一收入總額金一萬十五圓六十錢二厘
一支出總額金五千百四圓六十六錢八厘
一現在剩餘金四千九百十圓九十三錢四厘

▲總會及職員會

■、一月七日榛原郡勝間田村に於て同村會員總會を開き來會者六十餘人同日は稲見幹事部顧問及幹事出席同村遺族四名に對し慰藉金贈呈式を行ひ稲見幹事部顧問より本會及慰藉金贈呈の趣旨に就き演述あり。

■、一月二十九日靜岡市幹事部は役員會を兼ね新年會を同市物產陳列館に於て開催し田中主事長島幹事部顧問等臨席午後二時三十分開會長島幹事部長挨拶を述べ次に長島幹事部顧問田中主事各一場の講話をなし琴胡引合奏、平圓盤蓄音器の演奏等の餘興ありて午後四時三十分閉會せり。

■、二月十一日榛原郡相良町に於て同町會員總會を開き來會者七百餘人同日は稲見幹事部顧問及幹事出席同町遺族六名に對し慰藉金贈呈式を行ひ稲見幹事部顧問より本會の目的及慰藉金贈呈の趣旨に就き演述あり。

■、二月十五日駿東郡清水村に於て同村小學校母姉會と聯合して會員總會を開き辻幹事部長幹事部事務員等出席多數會員の來會あり午後一時開會辻幹事部長の祝辭平井村長の本會趣旨及近況に關する說明中村小學校長三島高等女學校戶田教諭の講演にて式を了し蓄音器講談等の餘興ありて午後四時三十分閉會せり。

■、九月二十四日赤十字社支部に於て幹事部長會を開き石原支部長支部顧問代理小島本縣事務官靜岡市在住評議員等出席午後一時三十分開會支部顧問代理小島縣事務官の訓示石原支部長の挨拶あり協議事項に關しては田中主事より說明をなし協議終了の後引續き當支部が明治三十七八年戰役の盡力に依り下賜の銀盃及醵金成績良好の故を以て本會より贈與の金盃を披露し次に當支部彰功規程に依り靜岡市及引佐郡の二幹事部に彰功旗授與式を行ひ午後三時閉會せり。

▲會務擴張會員募集に關する施行

當支部は本年度に於ける會務擴張の計畫に方り客年中本會に對する流說の縣下人心上に影響少からざりし觀あるを以て一般の疑惑を氷解せしむる爲め廣く本會の現狀を紹介して時に幹事部役員と協議し或は本會事務總長の口演筆記を配附して斡旋に力め機を得て劃策せむとするの時に際し縣下洪水に遭遇し其の慘狀見るに堪へざるの場合なりしを以て一時延期し九月に至り幹事部長會を開き會費收集並會員募集の件を協議し併せて客年度に於て會員步合の優等なりし靜岡市幹事部會費收集步合の優等なりし引佐郡幹事部に對し當支部現定の彰功旗第一回授與式を擧行して會務の奬勵を計りたり

▲臨時事業

■、臺灣討蕃隊へ慰問袋贈與の爲め本會より募集方通牒に依り當支部は其擧を贊し千九十七袋料金二百七十四圓二十五錢を募集贈與したり。

■、十月十日本縣共祭招魂祭擧行に際し當支部よりは遺族へ配贈の爲め菓子七百折及遺族休憩所餘興として浪花節一座を寄附し石原支部長評議員主事事務員出席し靜岡市幹事部よりは長島幹事部長事務員等出張して專ら遺族の優待に力めたり。

■、十月十六日濱名郡濱松町に於て本縣共祭招魂祭擧行に際し支部長代理龍岡評議員主事事務員出張し靈前には紅白の鏡餅を供へ遺族へ配贈の爲め菓子八百折を寄附し濱名郡幹事部よりは天野幹事部長松井桑原の兩評議員其の他幹事數名出張して專ら遺族の優待に盡力したり。

●榛原郡管山村會員總會

當支部內榛原郡管山村愛國婦人會員は同村婦人會と聯合して客臘二十五日午前十時より同村尋常高等小學校內に於て四十三年度總會を開催せり。出席者は無慮二百五十名同村稀に見る盛會にして來賓の主なるものは稲見同郡幹事部顧問篠窪榛原中學校長林同郡視學及郡村吏員同村小學校職員其他村內有力者等にして定刻に至るや松尾校長は起て開會の辭並婦人に關する注意事項を述べ次へ稲見同郡幹事部顧問は『婦人界に望む』『兒童觀に就て』等の題下に縷々二時間に涉る熱誠なる講演あり之にて暫時休憩一同晝飯を了し午後一時再會篠窪榛原中學校長は『婦人の趣味』なる題下に是亦適切有益なる長講演あり孰れも會衆に十分の感動と裨益とを與へたり。尙餘興として蓄音機を使用し終て午後三時半散會したり。當日出席者は華奢の風を避くる爲め綿服着用の旨を通知しある事とて孰れも質素の服裝にて來會し一人として華美の粧をなすものなかりき。因に記す當日榛原郡幹事部より總會費補助として金若干を寄贈し將來益々其の發達を促されたり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●靜岡市幹事部幹事會●

二月十二日靜岡市幹事部は同市物產陳列館階上に於て幹事會を開き支部長代理小島副長、田中主事臨席、長島幹事部長、長島同顧問及幹事二十三名出席午後二時十五分開會、長島幹事部長挨拶をなし長島同顧問演述の後會務の報告をなし次に小島副長の挨拶、田中主事の演述ありて式を了し一同に茶菓を供し浪花節薩摩琵琶の餘興あり終て同幹事部の三十七八年戰役に際し下賜せられたる銀盃及彰功旗に附與せられたる銀盃を披露し餅折を配付し會務上に關し互に意見を交換して午後五時解散せり、當日は同所に於て遠山流生花陳列會あり本會場の周圍に陳列しありたることゝて淸洒たる會場と相應じて一層の光彩を添へたり。

●熱田町會員總會●

當支部內田方郡熱海町會員は一月十六日熱海梅園に於て同町會員總會を開く當日の出席會員數八十名にして孰れも質素なる禮裝たり、午前十時開會、幹事宮澤喜那子氏開會の辭を述べ併せて會務に關する報告及本會の經歷を演述し、次に同町委員石渡要吾氏は本會の主旨並會則及本會に對する將來の希望等に就き懇切なる說示的演述をなし、次に贊助員其他有志の祝辭及演述等ありて午後一時閉會、別席にて晝餐の後福引其他の餘興あり午後三時散會せり。

●富士郡岩松村會員總會●

去る二月五日、當支部富士郡岩松村會員第一回總會は同村婦人會と聯合して同村永源寺に於て開催されたり、當日は特に戰死者軍人の遺族及癈兵十四名を招待し、出席會員四百十二名、來賓には衆議院員河野廣中夫人河野關子、富士郡幹事部長鈴木たよ子、同村長島崎仁作、同村小學校長西村和一郎の諸氏及村會議員、青年會長、同顧問等あり。

午後二時開會、先づ岩松村委員は愛國婦人會及同村婦人會の聯合總會は最も喜ぶべき事なれば當日を記念とし將來斯會の行はれんことを望むとて會員の盡瘁及有志者の勞を謝し、尙本會事業は前途遼遠なれば一層努力して忠愛慈善の實績を擧げられん事を希望する旨を述べ、次に富士郡幹事部長は婦女子の責務たる將來倍々重きを加ふものとて其の實例を擧げ且つ同情に富める諸姉は熱誠に本會の爲めに力を致し會務の擴張に努めざるべからずと訓示し、次に河野夫人は婦人內助及本會の起源より女子敎育の目的に說き及ぼし、影山秀樹氏は七福神の由來を陳して婦德養成に就き、青年會長西村和一郎氏は孝子小木曾つぎ女の略歷に就き孰れも演述せられ、本會代表者影山つや子氏の謝辭、同村婦人會幹事總代影山ふみ子氏の答辭、次に遺族癈兵總代落合淸（尋常小學第三學年）は一同同情の淚の內に謝辭を述べ、斯くて午後四時式を了し、折詰を配付し、餘興義太夫及其他模擬店あり、又基金に充つる爲め會員製作品の販賣所を設けたる等用意周到にして各自歡を盡して解散せり。

青森支部

●幻燈會及軍人遺族癈兵慰藉會●

▲田名部町の會合

當支部田名部町愛國婦人會員の催しに係る茶話會兼軍人遺族癈兵慰藉會は一月十八日午後一時田名部町圓通寺に於て開催す大吹雪にも拘らず遺族癈兵を始め來賓、會員の來集九十餘名君ケ代の奏樂あり林幹事部長の開會の辭熊谷郡事務員の事務報告あり首藤主事は支部長に代り遺族癈兵慰問の辭及會員に對し數千言に亙れる希望を述べ林郡顧問及來賓石澤寂導氏の精神講話あり菊池町長は遺族癈兵一同を代表して謝辭を述ぶ各職員及有志の斡旋にて茶菓及赤飯等を配り餘興として蓄音機數十番を奏し尙竹本芝駒太夫竹本八重吉太夫等の義太夫あり散會せしは午後六時にして散會後午後六時半より同寺に於て愛國幻燈會を開催せり來會者無慮五百餘名廣大なる本堂も殆んど立錐の餘地なき盛況を呈せり林顧問開會の辭を述べ首藤主事及事務員交々起て說明し來會者に多大の感動を與へたり當夜迄に入會申込者十六名又翌日林幹事部長熊谷事務員其他贊幹事諸氏の斡旋盡力の結果特別會員河野とみ子、同伊藤ゆき子の兩氏は各五十圓宛寄附せられ又未納會費の整理等に就ても頗る良好なる成績を得たり。

▲下北郡大畑村の幻燈會

首藤主事一行の幻燈會は一月二十一日大畑尋常高等小學校に於て開かる當夜は寒氣酷烈なりしも會する者熊谷郡書記、宮浦村長、山內病院長、山口學校長、有志者、同村愛國婦人會員全部及女子同窓會員其他無慮四百餘名定刻前既に立錐の餘地なく後れて廊下に佇立するもの無數村長の開會の辭主事の挨拶を兼たる婦人會由來の說述ある嚴肅なる君ケ代の齊唱了りて幻燈に移る首藤主事の熱烈なる說明は非常の感動と同情を以て迎へられ滿場寂として唯說明者の聲と時に起る急霰の如き拍手を聞くのみ即日入會申込者六名あり此日山內幹事、宮浦、槇、佐藤、堺の四贊事奔走最もつとめ菊池役場書記學校職員諸氏の助力多きに居れり尙一行は廿二日右役員諸氏と入會者勸誘及未納會費の整理に着手したり。

▲下北郡下風呂村の幻燈會

一月二十四日夜下風呂小學校にて開催是亦非常の盛會にて來會者三百餘名、首藤主事及東原事務員の盡力前項の如くにして午後九時解散せり。

▲易國間村幻燈會

豫て下北郡へ出張中の當支部首藤主事一行は一月二十七日易國間小學校に於て幻燈會を開催せり來會者會員其他三百五十有餘名先づ蓄音機數曲を奏し午後六時半佐藤委員の開會の辭、東原事務員及首藤主事の說明等あり終りに同主事より平時に於ける本會事業の多端は戰時に劣らず却て增々會員增募等の必要を感せるを述べ當夜入會せし者三名ありたり。

▲下北郡大間村の幻燈會

翌二十八日夜、大間村小學校に於て幻燈會を開く、有志者諸氏の熱心なる盡力に依り諸事宜しく整頓し、首藤主事及事務員の熱誠なる說明は來會者に多大の感情を與へ、九時半大なる成功を以て閉會したり。

▲佐井村の幻燈會

暴風雪砂を飛ばす一月三十一日夜、首藤主事一行は下北郡佐井村小學校に於て幻燈會を開き、午後九時散會す。來會者五百餘名、即夜新入會員六名を得たり。

▲川內村總會並幻燈會

二月八日午後二時より川內小學校講堂に於て川內村愛國婦人會々員總會開催阿部委員先づ開會の辭を宣するや君ケ代を合唱し季富委員の會務報告に次いで熊谷本郡幹事部長代理及首藤本縣支部長代理二氏の本會振興上に關する有益なる講話あり夫より茶菓の饗應ありたるが甲斐甲斐しき幹部連の勞により遺憾なく手配し了るや小學校生徒の遊戲、福引等の餘興あり、七十餘名の來會者皆滿足して和氣靄々の裡に散會せり。

又當夜は午後七時半より本村泉龍寺に於て幻燈會を開催したり。

▲脇野澤の幻燈會

二月十一日下北郡脇野澤正覺寺に於て首藤主事一行の幻燈會を開き、來會者四百餘名、新入會者一名ありたり。

福井支部

明治四十三年度事務成績

▲會員の增減

本年度新たに入會したる者三百〇七名他管より轉入せる者三十三名合計三百四十名他管へ轉出せし者三十二名退會せし者百二十一名死亡したる者五十八名合計二百十一名此差引百二十九名の增員なり

▲事務處理の件數

當支部に於て收受なしたる書類數は四百四十八件發送したる書類數は三百六十六件なり。

▲救護に關する事項

本年度に於ける被救護者人員は三百三十六名にして內丙に屬する者二百七十八名丁に屬する者五十八名此支給金額は千八百五十四圓にして此內本部より受けたる金額は千五百〇五圓支部より支出の金額は三百三十九圓也。則ち丙に屬する一名五圓づゝ丁に屬する一名八圓宛を贈與なしたり。

▲有功章受領者數

本年度に於て二等を受領したる者四名三等を受領したる者二十名なり。

▲職員の異動

本年中主事二名變更あり一名は他に轉任し一名は辭職を以て更に主事一名相談役二名の囑託あり而して事務員一名雇員一名辭職解任せり。

▲幹事部職員の異動

足羽郡幹事部長及顧問は南條郡へ轉せらるゝにより其後任に鷲田津禰子、幹事部長を同鷲田又兵衞氏、顧問を囑託せらる。

南條郡幹事部長中澤淳子同顧問中澤弘恭氏は辭職せられたるを以て其後任に東はま子、幹事部長を同東忠藏氏顧問を囑託せらる。

三方郡幹事部長及び顧問は丹生郡へ轉せらるゝにより其後任に白男川菊子へ幹事部長を同顧問白男川讓介氏囑託せらる丹生郡幹事部長及顧問は遠敷郡へ轉せらるゝにより其後任に佐々木登美子に幹事部長を同顧問を佐々木武介氏に囑託せらる。

遠敷郡幹事部長和田はる子同顧問和田見龍氏は辭職せられたるを以て其後任に大山榮子へ幹事部長を同顧問を大山綱岳

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氏へ囑託せらる。

▲幹事及委員の異動數

幹事の職を受けたるもの六名

幹事の職を退くもの四名(何れも轉居による)

委員の職を受けたるもの九十六名

委員の職を退くもの四十一名

▲總會に關する事項

本會總會に際しては當支部より中村支部長近藤主事片山事務員出張麴町區富士見町一丁目松葉館(田中勘兵衞)に事務所を設け上京參列者の便宜を謀る當日出席の會員數は招待券持參の參列者廿三名一般會員三十八名なり。

今立郡幹事部は七月三日五日の兩日を期し第一回總會を鯖江町及栗田部の兩所に於て開催し新たに入會したるもの二百五十七名當日支部長及池松副長主事事務員等出席す又坂井郡幹事部內本鄉村に於て八月三十日を期し會員總會を開催し兩所共支部長主事事務員等出席す以上何れも極めて盛況たり。

▲賞與施行の事項

今立郡幹事部總會開催に付ては會員の便宜を謀り鯖江町栗田部の兩所に開催し本會の旨趣を徹底せしめんと專ら會員の增募に東奔西走日夜盡力せし職員は勿論其他金品寄附者、有功章及木杯謝狀等夫々贈與せられたり。

▲慰問袋贈與に付醵の件

臺灣討伐隊へ慰問袋贈與云々本會の通知に基つき夫々通牒に及し處會員は勿論競うて其需めに應じ一袋二十五錢として總に九百二十六袋餘の材料金二百三十一圓七十錢之を兩度に本會へ納付せり。

神奈川支部

●明治四十三年度事務報告

本年度に於ては前年度の計畫を襲踏し會務の整理と會員の增加とに盡瘁せしも財界の不振に伴ひ豫期の發展を見る能はざるが如くなりしが幸に幹事部長以下職員の熱誠に依り稍々順境に向ひしに八月に至り管內各地水害を蒙り茲に一頓挫を來て宿昔の辛苦水泡に歸したるは頗る遺憾なりき。

軍人の遺族癈兵の救護に關しては定期に於て救護したるもの三百六十九人此救護金四千九十六圓にして內千五百九十六圓は本部より支出し二千五百圓は支部より支出し其他臨時に於て八人此金額八十六圓、生業を補助せしもの百二十三人此金額四百五十二圓及水害災被害者二十人に金百九十一圓を贈與し又軍人孤兒二名を選拔して本會教養所に入所せしめたり

山口支部

●明治四十三年度事務成績

▲本年中入會退會　死亡轉出　入醵金皆納者末項記載の如し。

▲救護金

金六十四圓五十錢　癈兵及軍人遺族生業扶助として支出

▲本年間に於ける執行事務の概況左の如し。

四十二年六月以降會員減少の實況を來せしを以て各幹事部長及同顧問に屢々諭告して各會員に克く本會趣旨の會得を普及せしむるの計畫を講せしも尚退會續出の傾向を免れざるを以て一面受持幹事區總會開設を督勵して漸く九ヶ町村受持幹事區の總會開設を擧ぐるに至る爲めに之れか補助費及募集費として貳百參拾六圓參拾五錢を支出せり而して此總會開設に當りては終始主事を派遣して本會の趣旨及救護方法等を演述せしめ傍ら當部備付の幻燈を觀覽せしめて其狀況を巨細に說明する等百方力を盡し以て今日の現狀を維持するの狀態なり。

▲會計

●收入の部

金壹千四百六拾六圓四拾六錢五厘　前年より越高
金六千貳百拾五圓貳拾壹錢八厘　會費步合
金參千貳百參拾五圓貳拾五錢　預金利子
金貳圓五拾錢　雜入
計金壹萬八百拾九圓四拾參錢參厘

●支出の部

金貳千七百七拾八圓參拾貳錢五厘　支部經費
金貳千貳百四拾六圓四拾五錢八厘　幹事部經費
金貳百三拾六圓參拾五錢　總會補助及會員募集諸費
金四千圓　剩餘金基本金組入
金貳拾圓　振替貯金基本金預金
金壹千五百參拾八圓參拾錢　翌年度越高
計金壹萬八百拾九圓四拾參錢參厘

▲入會者數

特別四人、通常百三十五人

▲退會及死亡數

退會　特別三人　通常三十三人　　死亡　特別十九人　通常百七十九人

▲會員轉出入數

轉入　特別四十一名　通常百四十一名　　轉出　特別四十七名　通常百五十七名

▲醵金皆納者數

特別五人、通常九十三人

埼玉支部

●明治四十三年度事務成蹟

本年度に於ては、春來季候順を得ず降雨勝なりし爲め當地主要物產たる養蠶に少からず影響を受けたるも幸に麥作は好結果を收めたるが故に此期を利用し會務の發展會費の整理を爲さんとするに當り偶々八月に於て近古未曾有の水害を蒙り人畜の死傷家屋の流失堤塘の欠壞橋梁道路の破損等非常の慘狀を極め折角得たる農產物及收積物は悉皆流亡の不幸に遭遇し糊口に窮困するもの續出するに至れり而して本會長よりは被害軍人遺族並癈兵に對し臨時救護金を贈與せられたり、如此狀況なるを以て會員の增募は勿論會費の整理は絕望に歸せり、今茲に同年中に於ける成績を摘載する左の如し。

▲會員の增減

四十三年十二月末日會員總數九千八百四人前年度末に比して百六人を減ず轉入二十九人轉出五十二人退會十七人除名二人死亡六十四人なり右の外資格變更一人名義改正二人幹事部內異動十八人支部內異動二十八人なり。

▲職員の異動

評議員囑託　一人　同解囑　二人
參與　同　一人　同　同　二人
幹事部長　同　二人　同　同　二人
顧問　同　二人　同　同　二人
幹事解囑　二人　內一人死亡
事務員囑託　三人　同解囑　五人
委員　同　五十三人　同　同　四十五人　內三人死亡

▲會員義務終了

紅紐並認定狀を交付したるもの五十七人。

▲會員章再渡

下附したるもの通常會員三人。

▲定期救護金

下附したるもの四百六人內丁六十三人丙三百四十三人此金一千四百十九圓內丁三百九十圓丙一千二十九圓なり。

▲臨時救護金

下附したるもの二百十二人一戶三圓宛此金六百三十六圓なり。

▲臺灣討蕃隊慰問袋

寄贈したるもの人員一千二百七十一人慰問袋數一千六百二十七袋此金四百六圓七十五錢なり。

▲醵集會費

金三千七百三十九圓十錢內一時出金したるもの金二百七十八圓十錢なり。

▲未納會費

金一萬九千百卅圓內此會費八千四十人なり內四十二年前に係るもの四千八百九十八人此金一萬一千卅二圓なりとす。

愛國婦人會員女子人口比較表

明治四十三年十二月調

	特別會員 終身	特別會員 年賦	特別會員 計	通常會員 終身	通常會員 年賦	通常會員 計	合計	四十年末女子人口	百分比例	七圓以上出金賛助員數
臺灣	一、〇九九	一、一八〇	二、二七九	一〇、四三四	三八、〇七一	四八、五〇五	五〇、七八四	一、四六〇、一八七	三、四八	[illegible]
北海道	四〇八	二、四九二	二、九〇〇	六九〇	一三、二五五	一三、九四五	一六、八四五	五七九、八〇〇	二、九一	[illegible]
東京	一、六八四	七、八九八	九、五八二	一、三七九	一八、六六一	二〇、〇四〇	二九、六二二	一、一三六、四三〇	二、六一	[illegible]
京都	五一二	一、九七二	二、四八四	六八四	一七、八三五	一八、五一九	二一、〇〇三	五二四、五〇〇	四、〇〇	[illegible]
大阪	六八一	二、七七四	三、四五五	八九一	一六、〇一五	一六、九〇六	二〇、三六一	八七二、三〇〇	二、三三	[illegible]
神奈川	四五五	一、二〇二	一、六五七	八七〇	一六、八一三	一七、六八三	一九、三四〇	五一一、〇〇〇	三、七九	[illegible]
兵庫	六二六	一、四九一	二、一一七	一、八八五	三〇、六一二	三二、四九七	三四、六一四	九〇一、二〇〇	三、八四	[illegible]
長崎	一、二六七	二、二八一	三、五四八	一、一五七	一〇、八〇七	一一、九六四	一五、五一二	五〇六、〇〇〇	三、〇七	[illegible]
新潟	三五六	八二三	一、一七九	八五二	一二、四一六	一三、二六八	一四、四四七	八八九、九〇〇	一、六二	[illegible]
埼玉	一一三	二三六	三四九	七三〇	八、七二五	九、四五五	九、八〇四	六三〇、四〇〇	一、五六	[illegible]
群馬	一九九	一、三三四	一、五三三	二五一	一二、九三四	一三、一八五	一四、七一八	四六〇、六〇〇	三、二〇	[illegible]
千葉	一八三	七八四	九六七	五五三	一二、〇四七	一二、六〇〇	一三、五六七	六五六、八〇〇	二、〇七	[illegible]
茨城	六四	四六八	五三二	二七六	一〇、四二〇	一〇、六九六	一一、二二八	六〇五、三〇〇	一、八五	[illegible]
栃木	二一二	七四四	九五六	四九五	一一、八三三	一二、三二八	一三、二八四	四六二、八〇〇	二、八七	[illegible]
奈良	七二	二二三	二九五	三七九	五、六一九	五、九九八	六、二九三	二七八、四〇〇	二、二六	[illegible]
三重	一三〇	三〇二	四三二	七八六	一二、五二四	一三、三一〇	一三、七四二	五二三、二〇〇	二、六三	[illegible]
愛知	五〇八	一、〇六五	一、五七三	二、二一二	三三、三一八	三五、五三〇	三七、一〇三	八六五、二〇〇	四、二七	[illegible]
靜岡	三三一	六一二	九四三	一、一一六	一八、六九六	一九、八一二	二〇、七五五	六五九、八〇〇	三、一五	[illegible]
山梨	八五	三〇〇	三八五	二六六	三、〇六〇	三、三二六	三、七一一	二七七、〇〇〇	一、三四	[illegible]
滋賀	一二三	三一七	四四〇	五四三	五、四五八	六、〇〇一	六、四四一	三五八、七〇〇	一、八〇	[illegible]
岐阜	一四一	七一四	八五五	三七五	六、八七七	七、二五二	八、一〇七	五〇五、〇〇〇	一、六一	[illegible]
長野	二三九	一、一八九	一、四二八	九九九	一六、五〇二	一七、五〇一	一八、九二九	六八八、二〇〇	二、七五	[illegible]
宮城	二七七	一、二九八	一、五七五	四一〇	一二、一八八	一二、五九八	一四、一七三	四五八、五〇〇	三、〇九	[illegible]
福島	三四一	一、〇三三	一、三七四	一、二三五	一一、四三一	一二、六六六	一四、〇四〇	五八六、九〇〇	二、三九	[illegible]
岩手	一二七	五六六	六九三	三二七	八、二七二	八、五九九	九、二九二	三七七、一〇〇	二、四六	[illegible]
青森	二八四	一、〇九八	一、三八二	五六五	九、三六一	九、九二六	一一、三〇八	三三一、九〇〇	三、四一	[illegible]
山形	三四九	五七二	九二一	一、二一一	一九、五四六	二〇、七五七	二一、六七八	四五二、二〇〇	四、七九	[illegible]
秋田	三二三	六四三	九六六	九〇五	一一、八二二	一二、七二七	一三、六九三	四二〇、二〇〇	三、二六	[illegible]
福井	一六五	六九二	八五七	五五〇	七、八四八	八、三九八	九、二五五	三一八、九〇〇	二、九〇	[illegible]
石川	五七二	一、三六〇	一、九三二	五九七	一八、六二七	一九、二二四	二一、一五六	三七八、九〇〇	五、五八	[illegible]
富山	一七三	九五八	一、一三一	五六〇	一四、一五九	一四、七一九	一五、八五〇	三八一、二〇〇	四、一六	[illegible]
鳥取	六四	二二八	二九二	一五六	五、六一五	五、七七一	六、〇六三	二一八、〇〇〇	二、七七	[illegible]
島根	一一一	三三五	四四六	三五二	一三、二五六	一三、六〇八	一四、〇五四	三六九、〇〇〇	三、八七	[illegible]
岡山	二五〇	八八一	一、一三一	八七七	二三、三七七	二四、二五四	二五、三八五	五七五、八〇〇	四、二三	[illegible]
廣島	五九一	一、九〇七	二、四九八	一、六二四	二九、八九九	三一、五二三	三四、〇二一	七五一、八〇〇	四、五三	[illegible]
山口	三一四	八九二	一、二〇六	一、三〇五	二六、八〇八	二八、一一三	二九、三一九	五〇九、〇〇〇	五、七八	[illegible]
和歌山	六六	二七三	三三九	二三九	四、一二〇	四、三五九	四、六九八	三三五、五〇〇	一、三二	[illegible]
德島	八六	二八〇	三六六	五六三	七、二五三	七、八一六	八、一八二	三五一、〇〇〇	二、三三	[illegible]
香川	二〇八	五四四	七五二	六〇三	一〇、九八二	一一、五八五	一二、三三七	三四二、四〇〇	三、六〇	[illegible]
愛媛	一〇五	四七九	五八四	三五六	一八、三三七	一八、六九三	一九、二七七	五一三、八〇〇	三、七五	[illegible]
高知	四三	二一〇	二五三	二七二	五、四九〇	五、七六二	六、〇一五	三一九、六〇〇	一、八八	[illegible]
福岡	四七三	二、二四二	二、七一五	九八一	三一、〇三四	三二、〇一五	三四、七三〇	八〇一、八〇〇	四、三三	[illegible]
大分	一三一	七二九	八六〇	三二六	一〇、六四七	一〇、九七三	一一、八三三	四二九、九〇〇	二、七五	[illegible]
佐賀	一三五	七三六	八七一	一八七	八、六九四	八、八八一	九、七五二	三三五、一〇〇	二、九一	[illegible]
熊本	二九八	二、五七三	二、八七一	四八八	一八、四八九	一八、九七七	二一、八四八	六一八、三〇〇	三、五三	[illegible]
宮崎	八九	三九〇	四七九	二三二	八、四七八	八、七一〇	九、一八九	二五八、九〇〇	三、五五	[illegible]
鹿兒島	一七一	一、〇四一	一、二一二	二四九	九、〇八四	九、三三三	一〇、五四五	六二〇、三〇〇	一、七〇	[illegible]
沖繩	六八	二七八	三四六	一三五	一、八九二	二、〇二七	二、三七三	二四三、九〇〇	〇、九七	[illegible]
函館	八〇	三六九	四四九	九九	一、二三〇	一、三二九	一、七七八	四四、七七〇	三、九七	[illegible]
朝鮮	四八四	一、五六八	二、〇五二	二九六	四、一一六	四、四一二	六、四六四	—	—	[illegible]
海外	八六七	七三	九四〇	四〇三	八一	四八四	一、四二四	—	—	[illegible]
計	一六、七三三	五四、六四九	七一、三八二	四三、九二六	六八三、五八四	七二七、五一〇	七九八、八九二	二五、七一二、二八七	三、一一	[illegible]

●正誤　前號熊本支部新年初會記事中出席者三十餘名とあるは九百餘名の誤りにつき正誤す

愛國婦人第二百二十號附錄　發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　竹內貞三　發行所　東京麴町區飯田町　愛國婦人發行所　印刷所　東京市小石川區久堅町　博文館印刷所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第二百二十號附錄

愛國婦人會創立準備に關し盡力せられたる諸氏並新舊正副會長

明治四十四年二月一日發行（毎月一回一日十五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

元帥伯爵伊東祐亨氏
愛國婦人會長子爵夫人岡部坂子氏
故公爵近衛篤麿氏
海軍大佐子爵小笠原長生氏
下田歌子氏

公爵二條基弘氏
愛國婦人會首唱者故奥村五百子氏
愛國婦人會副會長伯爵夫人阿部篤子氏
愛國婦人會前副會長公爵夫人一條悦子氏

子爵岡部長職氏
愛國婦人會前會長公爵母堂岩倉久子氏

大谷派本願寺法主大谷光演氏
公爵母堂近衛貞子氏
陸軍大佐堀内文次郎氏
山脇房子氏

發行兼印刷人山澤俊夫　編輯人竹内貞三　發行所東京麴町區飯田町愛國婦人發行所
印刷所　東京市小石川區久堅町博文館印刷所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN